



第7次 八戸市総合計画
ひと・産業・文化が輝く 北の創造都市

資	料	1
令和5年6月29日		
R05	総市委	03

第7次八戸市総合計画

【施策シート②】

第3回八戸市総合計画等推進市民委員会

令和5年6月29日

八 戸 市

○施策シート目次

政策3 「暮らし」を守る（政策分野：環境・防災・防犯・健康）	…… P 1
政策4 「ともに生きる社会」をつくる （政策分野：福祉・コミュニティ・多文化共生）	…… P 41

○施策シートの見方

■基本的な考え方

各政策の基本的な考え方を総合計画の冊子から転記しています。

■施策の体系

各政策の内容を体系的に掲載しています。

- ・政策…市が目指すべきまちづくりの方向を示すものです。
- ・施策の方向性…政策を推進するために、どのような方向性で施策を展開していくのかを示すものです。
- ・施策…施策の方向性ごとに、今後の方策を示すものです。

■各施策について、施策の内容のほか、以下の項目を記載しています。

（1）施策を推進するための事務事業

施策を推進するための事業について、代表的な事業と担当課を記載しています。各事業の具体的な内容については、第7次総合計画付属資料「令和4年度 政策を推進するための事業一覧」に掲載しています。

（2）市民アンケートの結果

施策の進行管理を目的として、令和4年6月に実施した市民アンケートの調査結果（施策の満足度）を記載しています。

（3）進行管理指標の動向

施策の進捗状況を確認するための指標の動向を記載しています。

（4）施策の進行状況に対する市の自己評価

市民アンケートの結果及び進行管理指標の動向に基づく、市の自己評価及び評価理由を記載しています。

（5）施策に対する委員会の評価

（4）に記載した市の自己評価の妥当性を審議いただき、記入する欄を設けています。

（6）施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見を記入する欄を設けています。

<基本的な考え方>

市民の暮らしは、豊かな自然環境に恵まれながら、常に予期せぬ災害や犯罪被害、感染症の流行といった脅威に直面する可能性がある中で営まれており、誰もが良好な環境のもとで健康で安全安心な暮らしを続けていくためには、恵まれた自然環境や衛生的な生活環境を維持しつつ不測の事態に適切に対処していくことが重要です。

これまで、当市では、空気や水を清浄に保ちながら、豊かな自然環境を将来の世代に引き継ぐことができるよう、環境保全の充実やごみ処理の適正化を図るとともに、地球温暖化対策を推進してきました。

また、市民の生命や財産を予期せぬ災害や犯罪被害、事故などから守り、安全安心な生活を送ることができるよう、自助・共助・公助の連携のもと、地域防災体制の構築やハード・ソフト両面における防犯・交通安全対策を推進するとともに、消防・救急体制の確立や消費者支援の充実に取り組んできました。

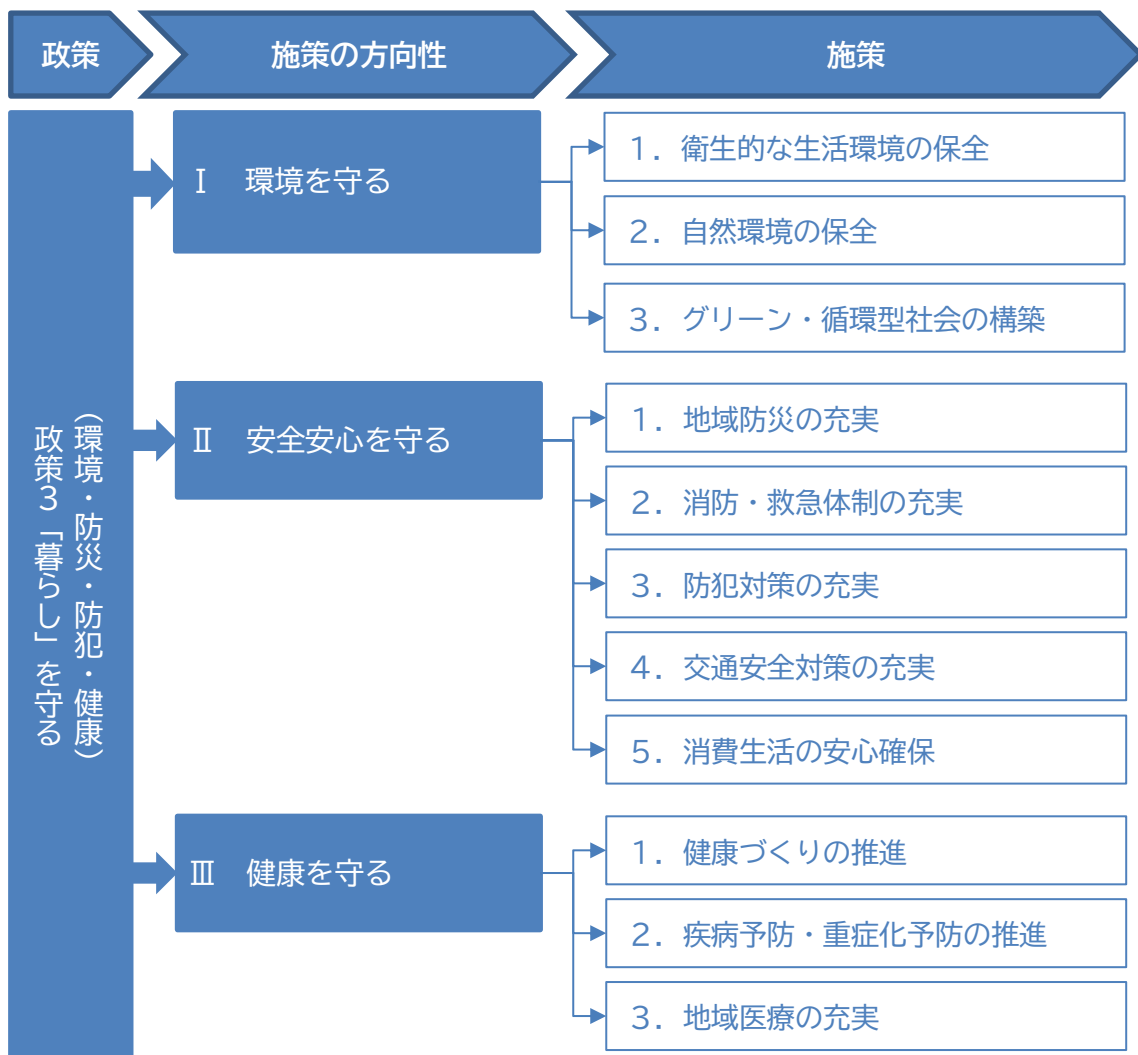
加えて、市民が心身ともに健康で生きがいのある生活を送ることができるよう、市民の主体的な取組を促進しながら、地域の保健・医療機関と連携し、保健医療の充実に取り組んできました。

こうした中、近年の気候変動に対する国の動きを背景として、当市においても持続的な自然との共生を目指し、地球温暖化防止のための更なる対応が求められるとともに、新型コロナウイルス感染症などの新たな感染症の流行や、激甚化・多発化している風水害、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震など、今後起こり得る不測の事態から、市民の「暮らし」を守る必要があります。

このようなことから、当市では、衛生的な生活環境や自然環境の保全、グリーン・循環型社会の構築に取り組み、暮らしの環境を守るとともに、地域防災や消防・救急体制、防犯・交通安全対策の充実、消費生活の安心確保を図り、安全安心な暮らしを守ります。

さらに、健やかな暮らしを守るため、健康づくりや疾病予防・重症化予防を推進するとともに地域医療の充実を図ります。

< 施策の体系 >



■ 施策の方向性 I 環境を守る

施策 1. 衛生的な生活環境の保全

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気環境や水環境が良好な状態に保たれている。 ・ 環境保全に対する市民の意識が高まり、市民一人ひとりに環境に配慮した生活が定着している。 ・ 家庭や事業所において排出されるごみが適正かつ安定的に処理されている。
施策の内容	市民や事業者等の環境保全意識の向上に取り組むとともに、環境保全対策の充実を図ります。また、適正なごみ処理や不法投棄の防止を推進します。

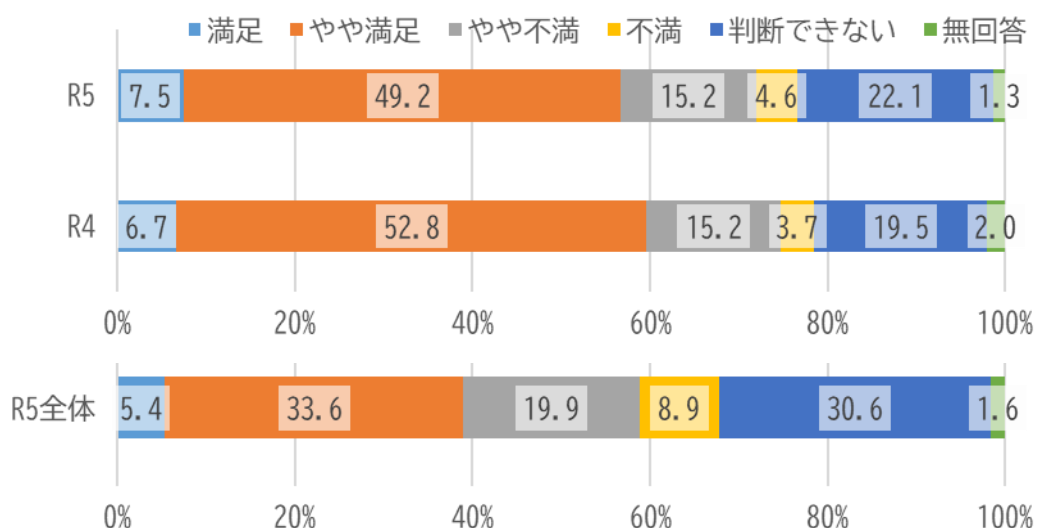
(1) 施策を推進するための事務事業

(24 事業)

事業名称	担当部署
専用水道・簡易専用水道調査事業	衛生課
衛生営業六法に基づく事業	衛生課
食品衛生法に基づく事務	衛生課
大気汚染防止対策事業	環境保全課
悪臭発生防止対策事業	環境保全課
自動車騒音調査事業	環境保全課
公共用水域水質調査事業	環境保全課
特定事業場排水等調査事業	環境保全課
地下水水質調査事業	環境保全課
水浴場水質調査事業	環境保全課
市庁敷地内放射線量モニタリングと公表（国）	環境保全課
ダイオキシン類対策特別措置法に基づく事務	環境保全課
浄化槽法に基づく事務事業	環境保全課
生活排水対策事業	環境保全課
市民による放射線量測定	環境保全課
はちのへクリーンパートナー制度事業	環境政策課
八戸市ボランティア用ごみ袋配付事業	環境政策課
八戸市環境美化協議会補助事業	環境政策課
正しいごみの分け方・出し方啓発活動事業	環境政策課
ごみ減量推進員配置事業	環境政策課
ごみ減量キャンペーン事業	環境政策課
事業系ごみ減量促進事業	環境政策課
産業廃棄物等適正処理推進事業	環境保全課
不法投棄対策	清掃事務所

(2) 市民アンケートの結果

【設問】市民や事業者が環境に配慮した生活を意識し、良好な大気環境や水環境が保たれるよう、衛生的な生活環境の保全が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 8位／全55問
 ※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

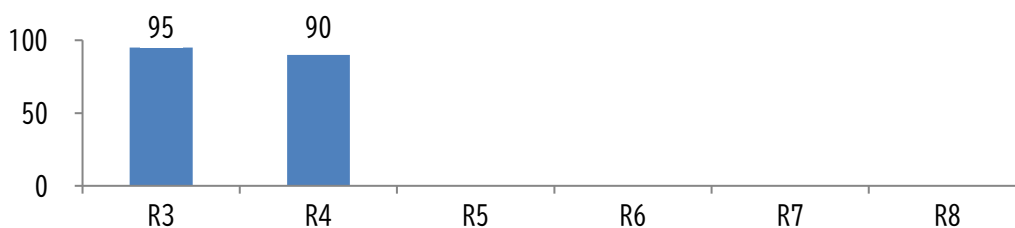
(3) 進行管理指標の動向

①公共用水域の環境基準達成率

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：公共用水域（河川・海域・湖沼）の環境基準点における調査結果で代表的な指標であるBOD（生物化学的酸素要求量）、COD（化学的酸素要求量）の環境基準を達成した割合

（単位：％）

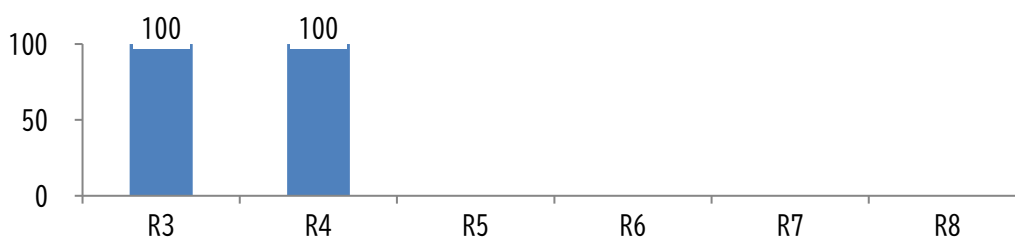


②一般環境大気の大気環境基準達成率

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：一般環境大気の調査結果で代表的な指標である二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質の環境基準を達成した割合

（単位：％）

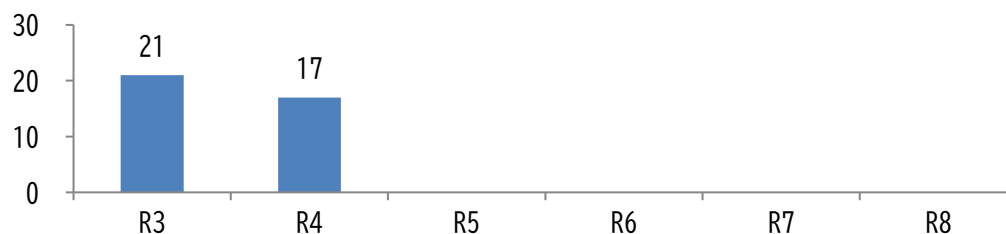


③環境学習会の開催回数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：環境啓発を目的とした環境学習会の開催回数

(単位：回)

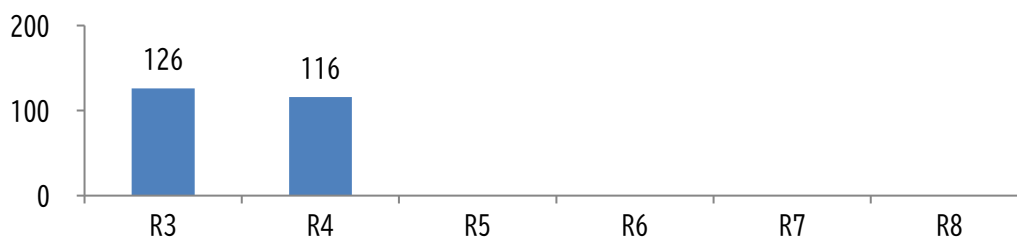


④不法投棄パトロールの実施日数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：一般廃棄物に係る不法投棄パトロールの日数と産業廃棄物に係る不法投棄パトロールの日数の合計

(単位：日数)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 指標①及び②の動向には臨海部の事業場等の影響に加え、自然的要因が影響するものの、各法に基づく届出事業者等に対する立入検査を通じた調査・指導を適切に行うことで、衛生的な生活環境が良好な状態に保たれるよう努めている。
- 環境学習会については対象を小学校としており、新型コロナウイルス感染症の拡大により実施希望校が減少したものの、令和5年度に入ってから多数の問合せを受けており、開催数は増加する見込みとなっている。
- はちのへクリーンパートナー制度は、個人・団体が公共施設のボランティア清掃を行う際に、その活動を支援する制度であり、コロナ禍にも関わらず新規登録団体数、活動人数が増加している。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-

施策2. 自然環境の保全

目指す姿	・美しく豊かな自然が維持され、市民が自然にふれあう機会が数多く創出されている。
施策の内容	自然保護団体や協力事業者との連携による自然保護活動を推進するとともに、市民が自然に触れ合える環境づくりに取り組みます。

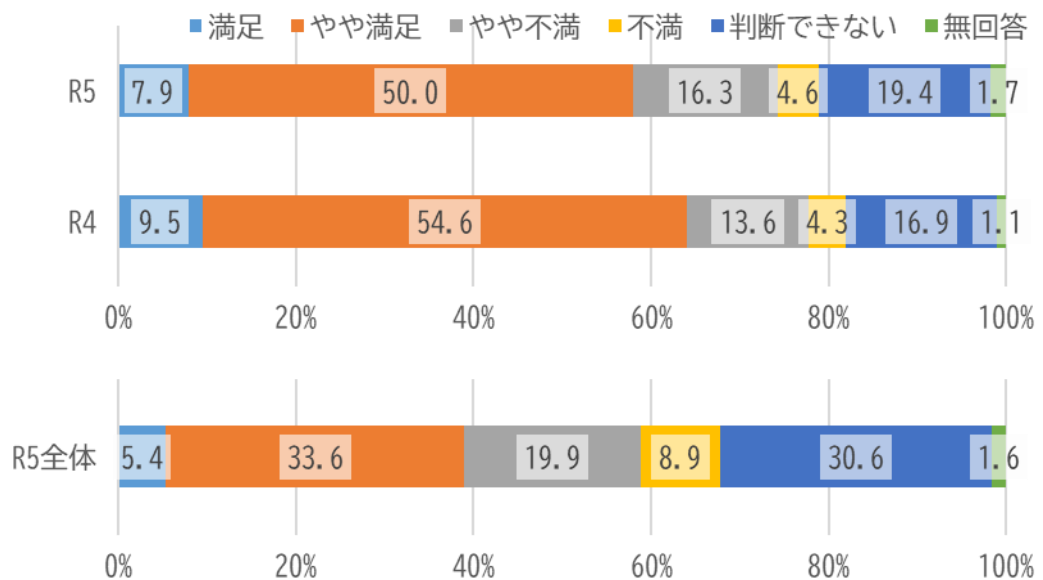
(1) 施策を推進するための事務事業

(4事業)

事業名称	担当部署
名勝種差海岸保護事業	社会教育課
天然記念物蕪島ウミネコ繁殖地保護事業	社会教育課
市民の森不習岳の施設改修等事業	農林畜産課
海洋ごみ回収事業	環境政策課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】美しく豊かな自然景観が維持され、次世代に継承されるよう、自然保護活動の推進など、自然環境の保全が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 7位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

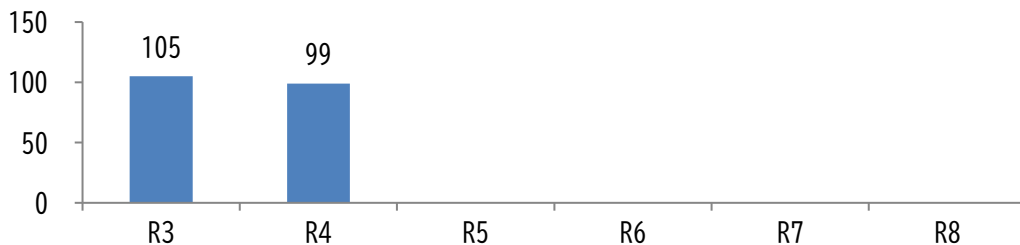
(3) 進行管理指標の動向

①名勝種差海岸保護指導員によるパトロール回数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：名勝種差海岸保護指導員によるパトロール回数

(単位：回)

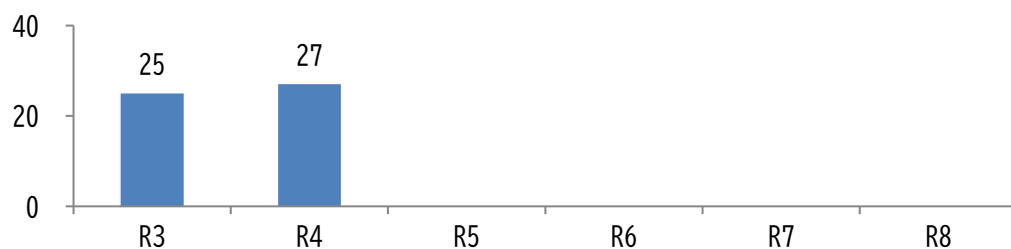


②外来生物の駆除実施日数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：外来生物の駆除実施日数

(単位：日)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 名勝種差海岸の保護においては、指導員によるパトロールを例年同様実施したほか、令和4年度は外来生物（オオハンゴンソウ）の駆除範囲を拡大した。
- 天然記念物蕪島ウミネコ繁殖地が指定100周年を迎え、記念事業としてパネル展やシンポジウムを開催し、蕪島ウミネコ繁殖地の状況を広く市内外に周知するとともに、課題の共有と対策に向けた討論を行うことができた。
- ウミネコの繁殖状況と植生を調査し、繁殖傾向や植物の種類・繁茂状況等の詳細データなどが得られたことから、令和5年度はウミネコの繁殖に適した植生管理の手法を調査する予定としている。
- 海洋ごみ回収事業では、蕪島から金浜漁港までの海岸を中心に、総計23.89tの海洋ごみを回収・処分したほか、作業の様子を近隣小学校の生徒が見学したことで、教育分野との連携を図るとともに、漁業関係者の意欲向上にも資する取組となった。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

<ul style="list-style-type: none">•••

施策3. グリーン・循環型社会の構築

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や事業者、行政が主体的に省エネルギー対策に取り組むことでエネルギー利用の効率化が進んでいる。 ・家庭や企業において再生可能エネルギーの活用が進んでいる。 ・3Rの取組が徹底された生活様式や事業活動が定着している。
施策の内容	市民や事業者に対する省エネルギーの普及啓発や、再生可能エネルギーの導入に向けた意識啓発、家庭や事業所における3R活動の促進など温室効果ガスの排出量縮減に向けた取組を推進します。

(1) 施策を推進するための事務事業

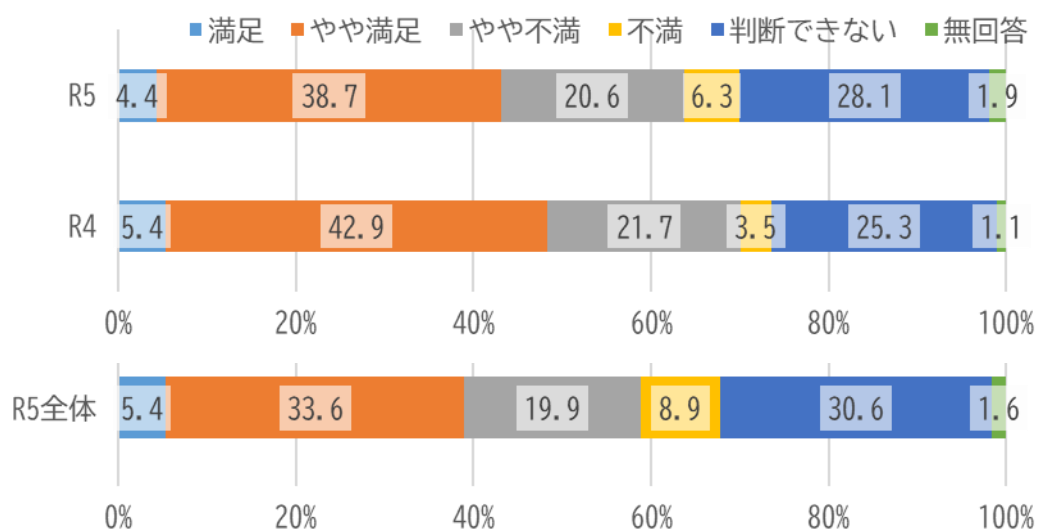
(8事業)

事業名称	担当部署
環境教育推進事業	環境政策課
省エネルギー普及・啓発事業	環境政策課
地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）推進事業	環境政策課
地球温暖化対策理解促進事業	環境政策課
脱炭素化推進事業	環境政策課
資源集団回収促進事業	環境政策課
小型家電リサイクル事業	環境政策課
廃食用油利活用事業	環境政策課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】省エネルギーや3R活動の推進、再生可能エネルギーの導入に向けた意識啓発など、グリーン・循環型社会の構築が進んでいる。

※3R：Reduce（リデュース・ごみの発生抑制）、Reuse（リユース・再利用）、Recycle（リサイクル・再資源化）のこと。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 13位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

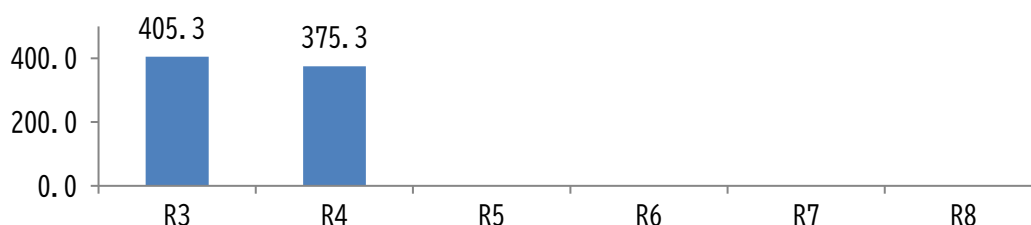
(3) 進行管理指標の動向

①市内の二酸化炭素排出量

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市内の産業、工業プロセス、運輸、民生家庭、民生業務、廃棄物、エネルギー転換の各部門から排出された二酸化炭素排出量の合計

(単位：万トン)

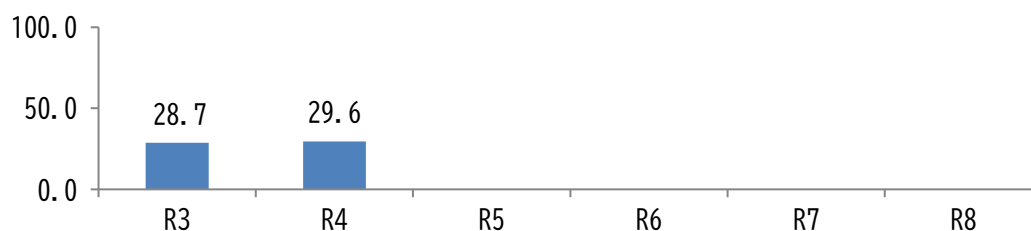


②リサイクル率

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：ごみ排出総量のうち、再生利用量の割合

(単位：%)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 市内の二酸化炭素排出量は若干の減少傾向となっているが、コロナ禍の影響を受けた事業者のエネルギー消費量が減少したことが要因として挙げられる。
- 今後に向けた取組として、民間企業を中心に組織された「八戸地域新ゼロエミッション連絡協議会」にオブザーバーとして参画し、市内全体での脱炭素化に向けた情報交換を行っている。
- リサイクル率の上昇については、官民間問わず取り組まれている資源物の分別回収が市民にも広く浸透してきており、市内全体でリサイクルを意識している市民が増加していると分析している。
- さらに、令和4年度には市内一部地域においてプラスチックの分別回収の実証実験を行い、効果的な結果を得られたことから、今後、全市的な事業展開を目指し事業を進めていくことで、更なるリサイクル率の向上に努めていく。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-

■ 施策の方向性Ⅱ 安全安心を守る

施策1. 地域防災の充実

目指す姿	・激甚化する災害に迅速かつ的確に対処できる体制が構築され、発災時において市民の生命と財産が守られている。
施策の内容	市民の防災意識の醸成や、防災訓練の充実を図るとともに、ハードとソフト両面での防災体制の強化に取り組みます。また、自主防災組織の育成支援など地域における防災力の強化を図ります。

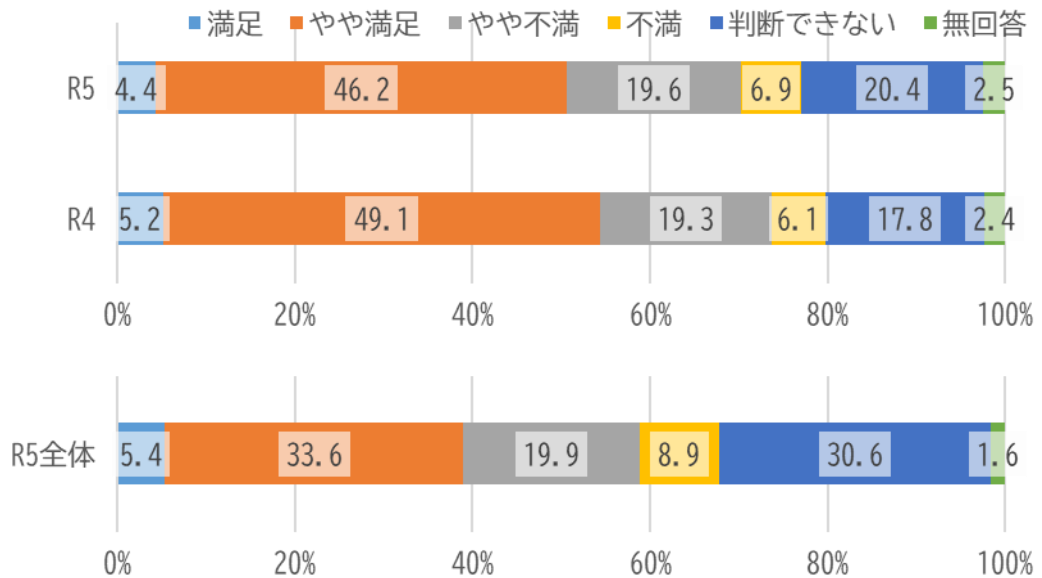
(1) 施策を推進するための事務事業

(29 事業)

事業名称	担当部署
防災市民研修会開催事業	災害対策課
防災教育副読本導入事業	教育指導課
小・中学校における防災教育の推進	教育指導課
総合防災訓練の実施	災害対策課
地区防災訓練の実施	災害対策課
図上訓練実施事業	災害対策課
事業所における防災訓練の充実	災害対策課
福祉避難所整備事業	福祉政策課
福祉避難所整備事業（福祉公民館・総合福祉会館の維持管理）	福祉政策課
福祉避難所整備事業	障がい福祉課
安全・安心情報発信事業	危機管理課
津波避難計画等改訂事業	危機管理課
避難所運営体制整備事業	災害対策課
災害用備蓄物資整備事業	災害対策課
津波避難誘導標識等整備事業	災害対策課
防災・危機管理体制強化事業	危機管理課
急傾斜地崩壊対策促進事業	港湾河川課
緊急浚渫推進事業	港湾河川課
防災重点農業用ため池防災対策促進事業	港湾河川課
市道冠水被害対策事業	道路維持課
木造住宅耐震化支援事業	建築指導課
耐震対策緊急促進事業	建築指導課
宅地耐震化推進事業	建築指導課
危険ブロック塀等安全対策支援事業	建築指導課
小・中学校における防災体制の強化	教育指導課
災害ボランティアネットワーク事業	市民連携推進課
避難行動要支援者事業	福祉政策課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】 激甚化する自然災害から市民の生命と財産が守られるよう、地域防災の充実が図られている。



【参考】 満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 11位／全55問
※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

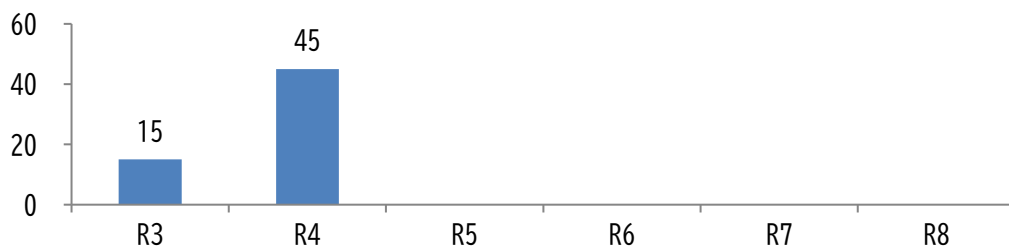
(3) 進行管理指標の動向

①地区防災訓練の実施件数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：地区防災訓練の実施件数

(単位：件)

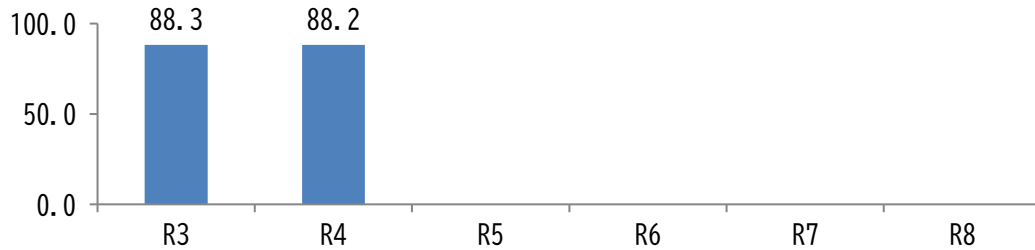


②自主防災組織の活動カバー率

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：自主防災組織の活動カバー率

(単位：%)

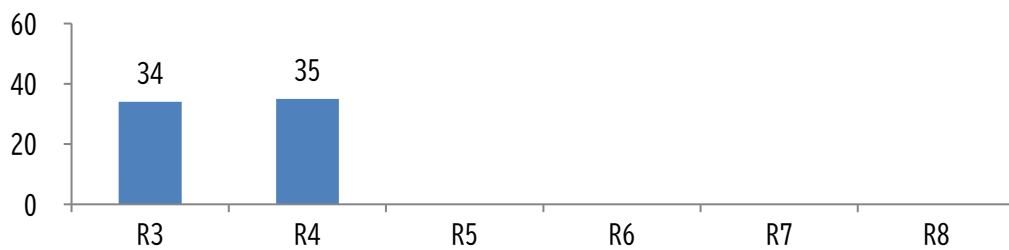


③避難行動要支援者[※]の支援に関する協定締結数
(累計)

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：町内会や自主防災組織などと避難行動要支援者の支援に関する協定を締結した累計件数

(単位：件)



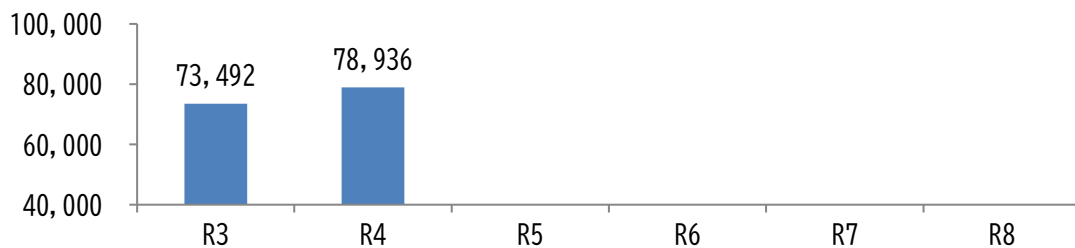
※国の呼称に合わせ、「災害時要援護者」について名称を変更したものの。

④安全・安心情報発信サービス（ほっとスルメール）の
登録件数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：安全・安心情報発信サービス（ほっとスルメール）の登録件数

(単位：件)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 地区防災訓練について、コロナ感染者の動向を見つつ、訓練方法を工夫したことで、実施件数が大きく増加したほか、令和4年度は新たに防災教育DVDを作成し、各自主防災組織や教育機関に配付することで、防災訓練や防災教育の一層の充実を図った。
- 国が公表した日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震のモデル及び県が公表した新たな津波浸水想定を踏まえ、津波ハザードマップ及び津波避難計画を改定したほか、課題となる避難困難地域の解消に向けたハード整備について、令和5年度から着手する「津波避難施設の整備等に関する基本方針策定事業」において検討することとしている。
- 市における防災・危機管理体制の強化を目的に、危機管理や災害対策を担う防災危機管理課を1グループ体制から2グループ体制へと再編し、指示系統の分散及び機動的な連携による有事の際でも的確な対応が可能となった。
- 八戸独自の防災教育副読本「防災ノート」(三訂版)を作成・配布しており、防災教育の充実や児童生徒の防災意識の向上に向けて、効果的に活用されている。
- 宅地耐震化推進事業については令和4年度までに簡易地盤調査を実施し、優先度順位を確定しており、令和6年度以降に安全性評価のための調査を実施する予定である。
- 危険ブロック塀等安全対策支援事業では、ブロック塀等の安全対策への補助及び戸別訪問による安全対策の周知を行っており、特に補助事業については、令和元年度の事業創設後、実績、市民の問合せ、県内他市町村の状況等を踏まえ、補助対象道路の拡大、補助額算定単価の見直しを行い、令和5年度には上限額を10万円から12万円とした。
- 県が進める急傾斜地崩壊対策施設整備及び市が進める河川浚渫及びため池浚渫はいずれも計画どおり順調に進んでいる。
- 自主防災組織の新規設立はなかったものの、自主防災組織対象の研修会において避難行動要支援者事業について説明したことで、協定締結数の増加につながっており、要支援者を地域で支援する体制づくりへの理解が深まったと考える。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

<ul style="list-style-type: none">•••

施策2. 消防・救急体制の充実

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・火災や事故、傷病者の発生時に迅速かつ的確に対応できる消防・救急体制が確立している。 ・市民や事業者に防火・救命に関する知識が浸透し、消防団への加入者が増え、地域において火災や事故に備えた体制が整っている。
施策の内容	ハードとソフト両面での消防・救急・救助体制の充実に取り組むとともに、市民や事業者の防火意識の醸成を図ります。また、消防団員の確保など消防団の充実を図ります。

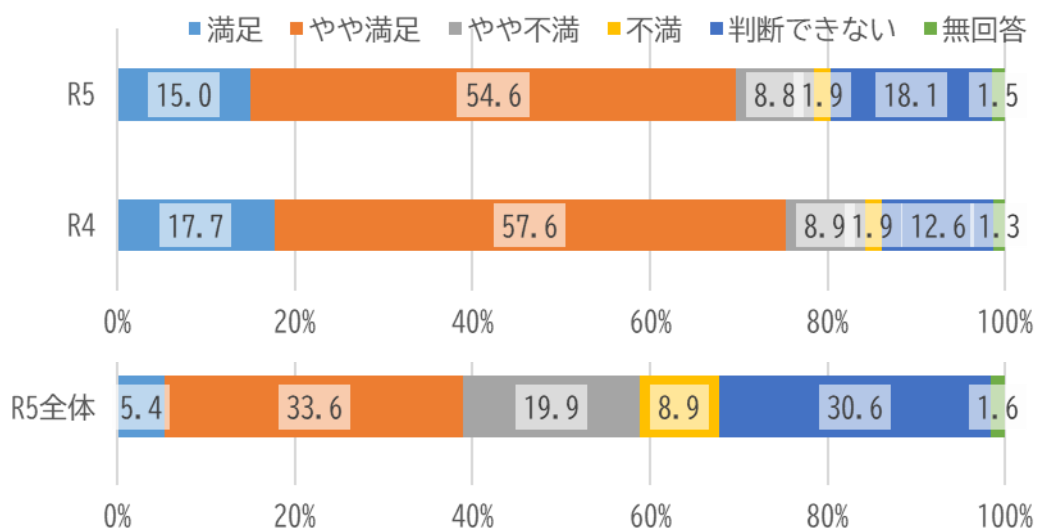
(1) 施策を推進するための事務事業

(9事業)

事業名称	担当部署
消防車両等整備事業（広域事務組合）	（広域）消防本部
消防防災施設整備事業（広域事務組合）	（広域）消防本部
救急救命士養成事業（広域事務組合）	（広域）消防本部
防火対象物予防査察事業（広域事務組合）	（広域）消防本部
救命講習会事業（広域事務組合）	（広域）消防本部
緊急消防援助隊合同訓練（広域事務組合）	（広域）消防本部
防火防災意識普及啓発事業（広域事務組合）	（広域）消防本部
消防団車両等整備事業	災害対策課
消防団員加入促進事業	災害対策課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】火災や事故、傷病者の発生時に迅速かつ的確に対応できるよう、消防・救急体制の充実が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 2位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

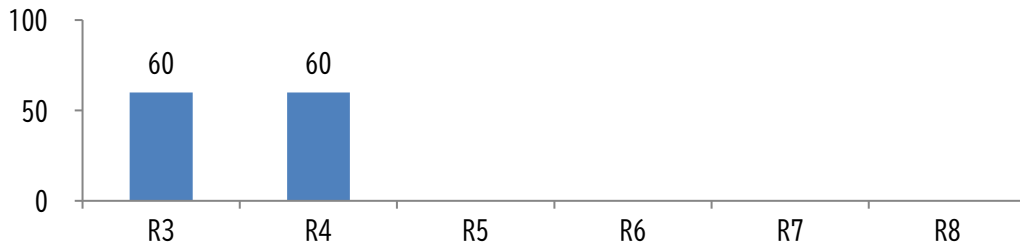
(3) 進行管理指標の動向

①耐震性防火水槽の設置数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市内の耐震性防火水槽の設置数

(単位：基)

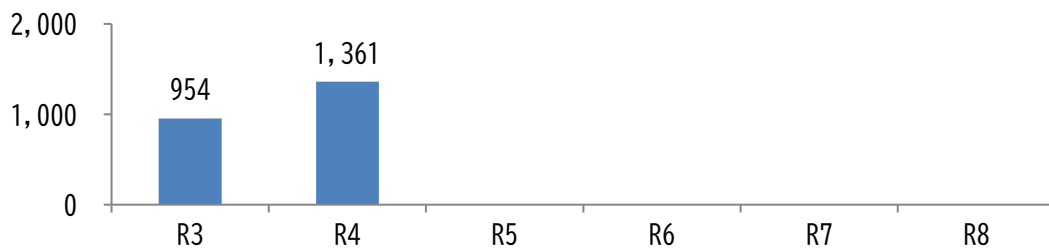


②救命講習会の受講者数

資料：八戸消防本部（各年度集計）

指標の定義：普通救命講習Ⅰ～Ⅲ及び上級救命講習を受講した人数

(単位：人)

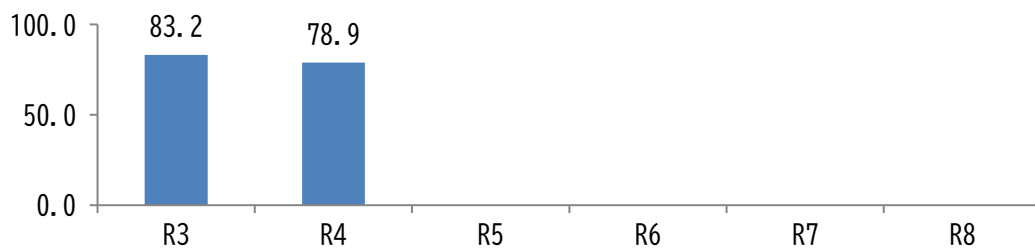


③消防団員の充足率

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：条例定数に対する消防団員の充足率

(単位：%)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 令和3年中は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から救命講習会を度々中止していたが、令和4年6月に講習会を再開したことで受講者数が増加した。
- 上記のほか、設備類の適正管理や各種訓練・研修を通じた人材育成に継続的に取り組むことで、ハード・ソフト両面からの安全・安心確保に努めている。
- 消防団員については、充足率が減少傾向となっているものの、継続的に消防団への加入の呼びかけ、ポスター掲示等を実施し、充足率向上に努めていく。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考えます →

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

<p>•</p> <p>•</p> <p>•</p>

施策3. 防犯対策の充実

目指す姿	・犯罪が起これにくい、犯罪を起これにくい環境で安心して暮らすことができる。
施策の内容	町内会や教育機関、事業者、警察、防犯関係団体との連携を強化するとともに、LED防犯灯の設置促進など地域における防犯体制の充実を図ります。

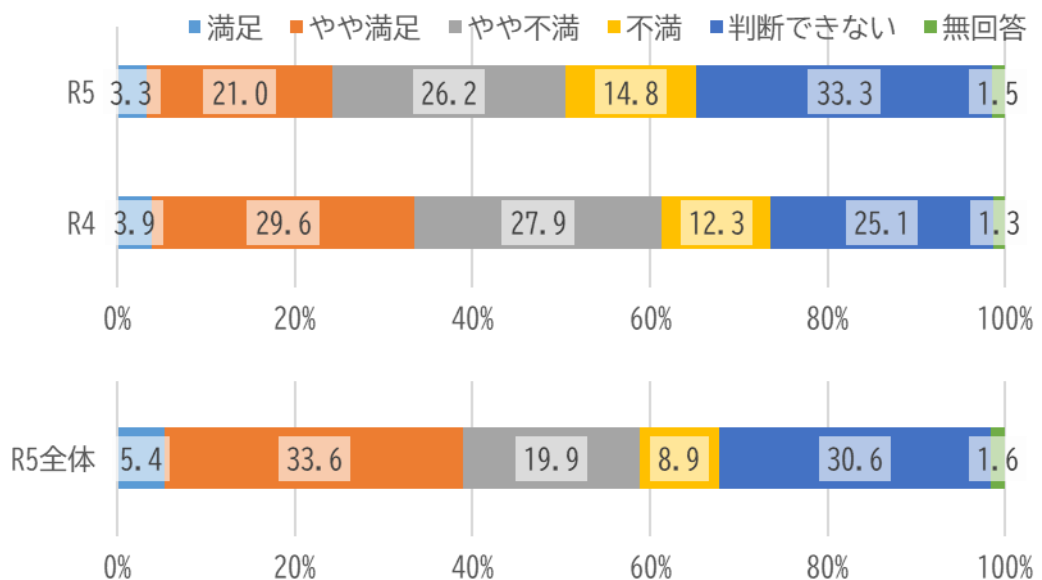
(1) 施策を推進するための事務事業

(4事業)

事業名称	担当部署
安全・安心まちづくり推進協議会推進事業	くらし交通安全課
防犯対策事業	くらし交通安全課
LED防犯灯整備助成事業	道路維持課
八戸市防犯灯LED化エスコ事業	道路維持課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】市民が犯罪の少ない社会で安心して暮らせるよう、通学路への防犯カメラの設置など、防犯対策の充実が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 39位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

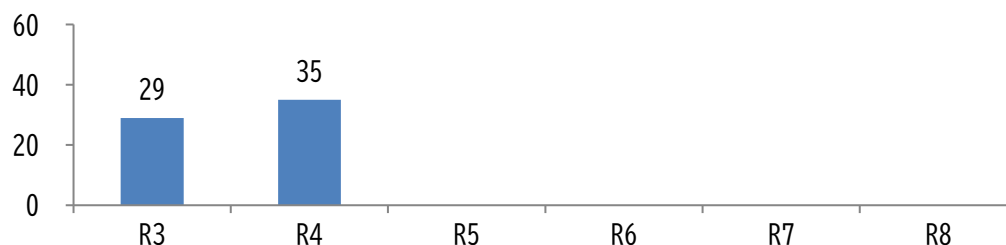
(3) 進行管理指標の動向

①地域安全マップを作成した学校数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：地域安全マップを作成した小学校数

(単位：校)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- コロナ禍により、地域安全マップ作製に向けたフィールドワークを中止していた学校が活動を再開したことで、地域防犯への意識が向上している。
- 防犯灯については、設置を希望する町内会等に対して、市から助成を行うことで設置数は年々増加しているとともに、平成30年度から導入した防犯灯LED化エスコ事業により、すべての防犯灯が適正に維持管理されている。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考えます →

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

<ul style="list-style-type: none">・・・

施策4. 交通安全対策の充実

目指す姿	・交通ルールが遵守されるとともに、道路や歩道の安全対策が講じられ、交通事故の発生が抑制されている。
施策の内容	市民及び事業者の交通安全に対する意識醸成を図るとともに、通学路における防護柵の設置など安全な交通環境づくりを進めます。

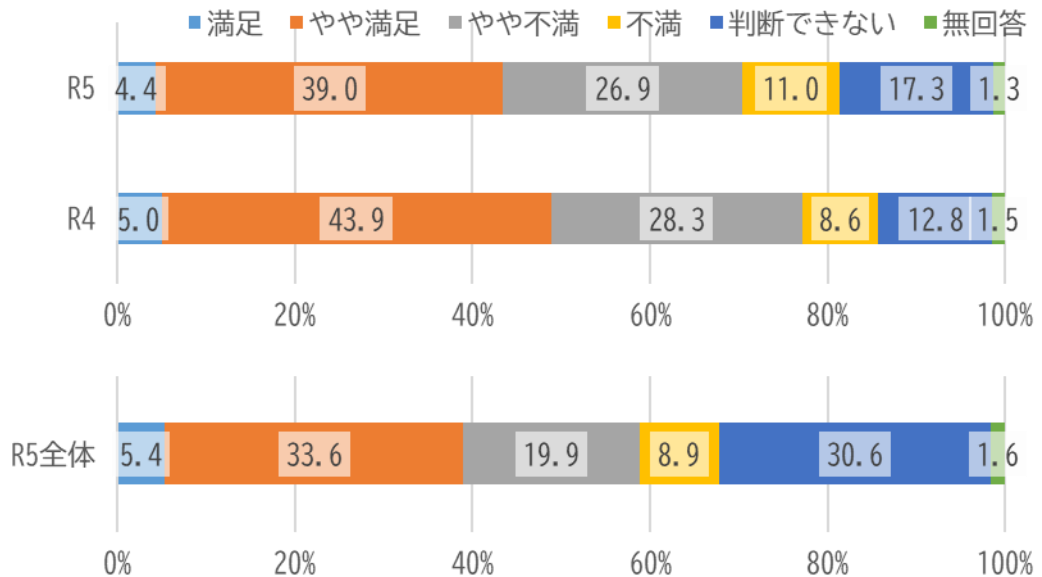
(1) 施策を推進するための事務事業

(3事業)

事業名称	担当部署
交通事故防止対策事業	くらし交通安全課
交通災害共済事業	くらし交通安全課
交通安全施設整備事業	道路維持課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】市民が交通事故の少ない社会で安全に暮らせるよう、交通安全対策の充実が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 25位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

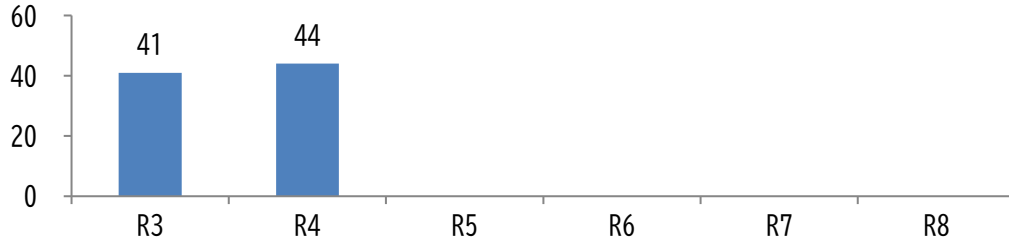
(3) 進行管理指標の動向

①交通安全教室等の開催件数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市内における交通安全教室・飲酒運転防止講座等の開催件数

(単位：件)

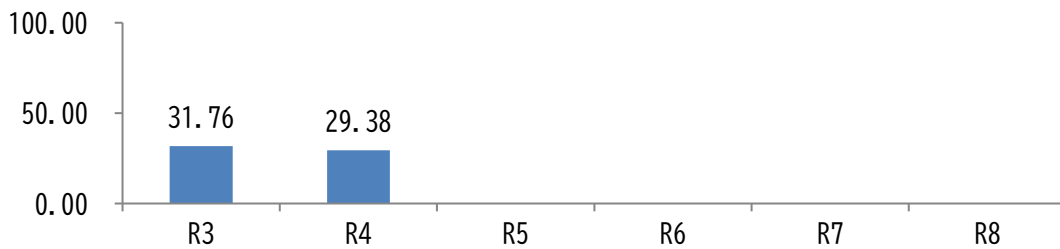


②青森県交通災害共済の加入率

資料：青森県交通災害共済組合（各年度集計）

指標の定義：市内における青森県交通災害共済への加入率

(単位：%)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- コロナ禍で回数が減少していた交通安全教室について、順次再開し、交通安全への意識の醸成につなげている。
- 通学路等における歩道の補修や白線の引き直し等に計画どおり着手しており、安全な交通環境整備が順調に進んでいるため。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

<ul style="list-style-type: none">•••

施策5. 消費生活の安心確保

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者トラブルに巻き込まれないよう、市民が消費者として適切に判断して生活している。 ・万が一トラブルに見舞われても、すぐに相談し、必要な支援を受けられる環境が整っており、市民が安心して暮らすことができている。
施策の内容	消費生活に関する情報提供や相談・支援体制の充実を図るとともに、生活再建の支援に取り組みます。

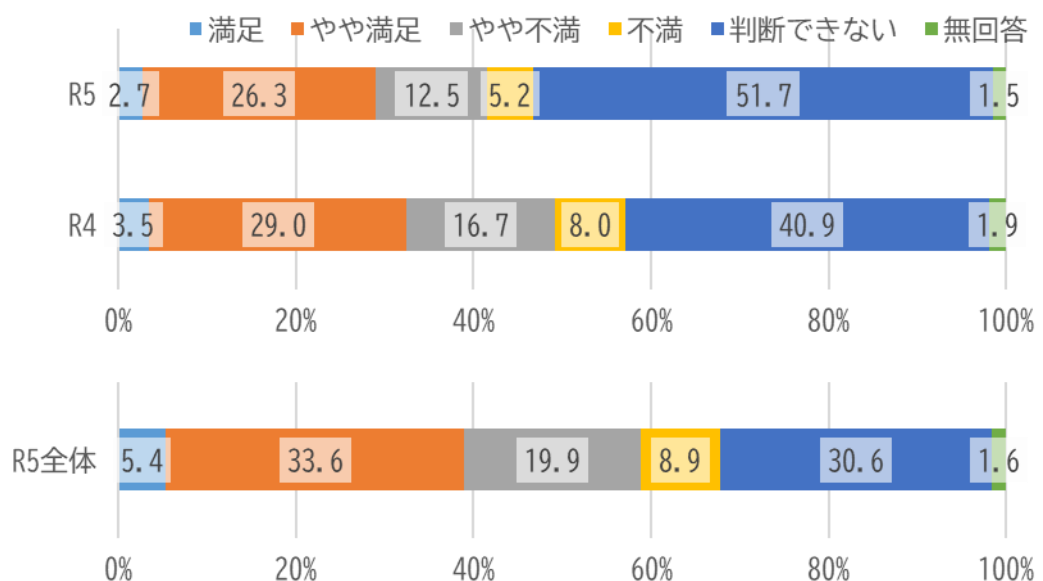
(1) 施策を推進するための事務事業

(7事業)

事業名称	担当部署
消費者講座開催事業	くらし交通安全課
消費生活情報提供事業	くらし交通安全課
市民生活相談事業	くらし交通安全課
消費生活相談事業	くらし交通安全課
生活再建相談事業	くらし交通安全課
債務整理資金・生活再建資金貸付事業	くらし交通安全課
消費者アシスト隊員養成事業	くらし交通安全課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】市民が安心して消費活動を行い、万が一消費者トラブルに見舞われても必要な支援を受けられるよう、消費生活の安心確保が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 26位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

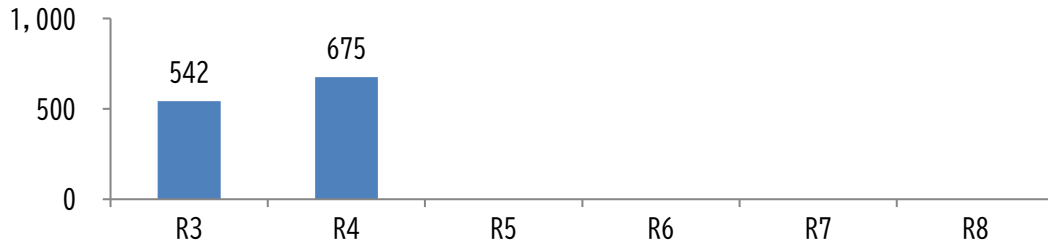
(3) 進行管理指標の動向

①消費者講座の受講者数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：消費者講座の受講者数

(単位：人)

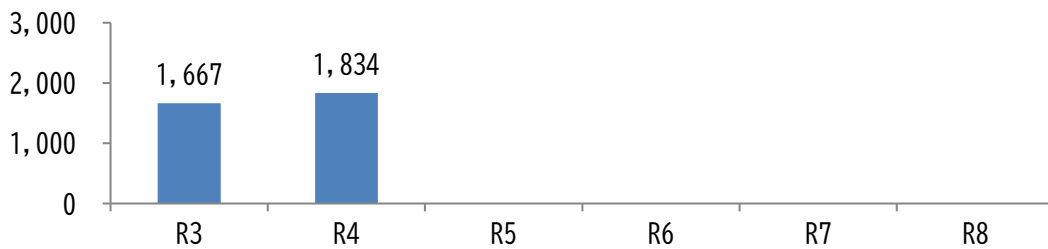


②消費生活相談件数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：消費生活に関する相談件数

(単位：件)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- コロナ禍で縮小していた消費者講座について、開催回数、定員を見直し、コロナ禍前の水準に近づけたことで受講者が増加し、社会情勢に応じた効果的な情報発信につながった。
- 消費生活相談はコロナ禍で一時的に減少してから、日常生活が戻る中で再び件数が増加しているものの、個別の相談に適切に対応できる体制が維持されている。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

<ul style="list-style-type: none">•••

■ 施策の方向性Ⅲ 健康を守る

施策1. 健康づくりの推進

目指す姿	・市民の健康意識が向上し、市民自らがライフステージに応じた健康づくりに取り組み、早世が減少し、健康寿命が延伸している。
施策の内容	市民の健康意識の醸成や健康相談体制の充実を図るとともに、市民の健康づくり活動の支援に取り組みます。

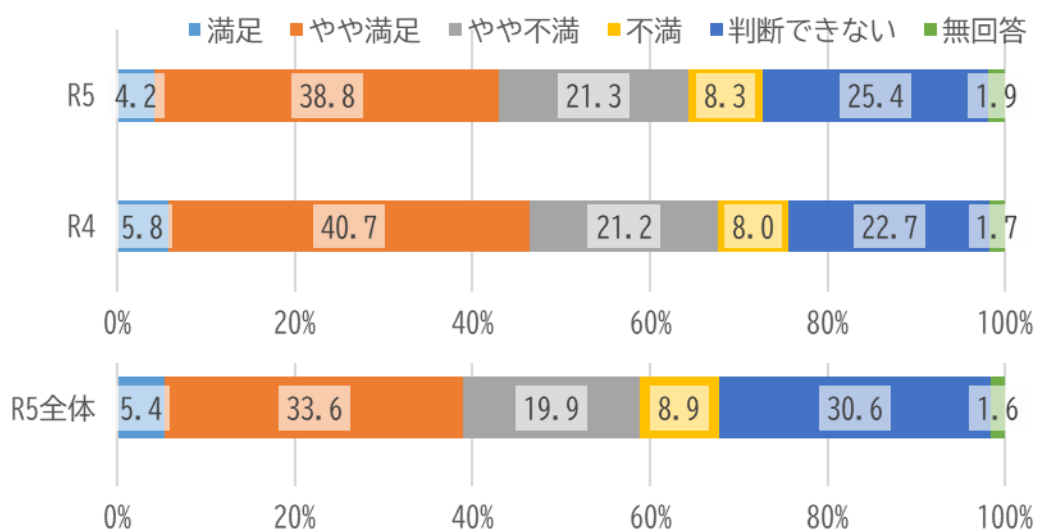
(1) 施策を推進するための事務事業

(11 事業)

事業名称	担当部署
健康意識啓発事業	健康づくり推進課
こころの健康づくり事業	保健予防課
健康教育事業（成人）	健康づくり推進課
健康はちのへ 21 ポイントアプリ事業	健康づくり推進課
健康まつり開催事業	国保年金課
国民健康保険周知事業	国保年金課
後期高齢者医療制度周知事業	国保年金課
健康相談事業（成人）	健康づくり推進課
女性健康支援センター事業	すくすく親子健康課
健康づくり団体等活動支援事業	健康づくり推進課
給食施設栄養管理指導事業	健康づくり推進課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】市民がそれぞれのライフステージに応じた健康づくりに取り組み、健康寿命が延伸するよう、健康づくりが推進されている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 17位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

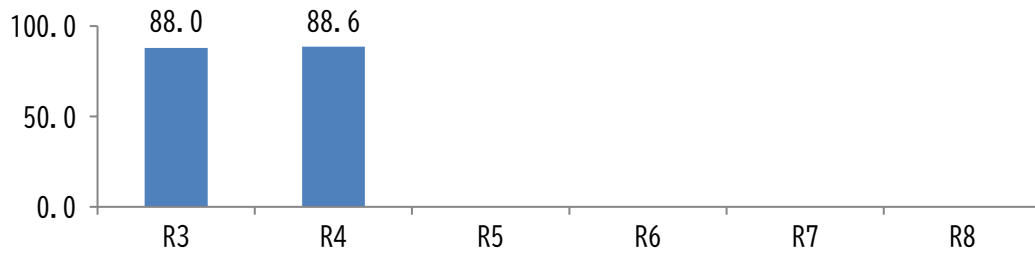
(3) 進行管理指標の動向

①市民健康づくり講座のアンケート結果(「講座内容が自分の生活に活かせる」と答えた人の割合)

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市民健康づくり講座のアンケート結果「講座内容が自分の生活に活かせる」と回答した割合

(単位：%)

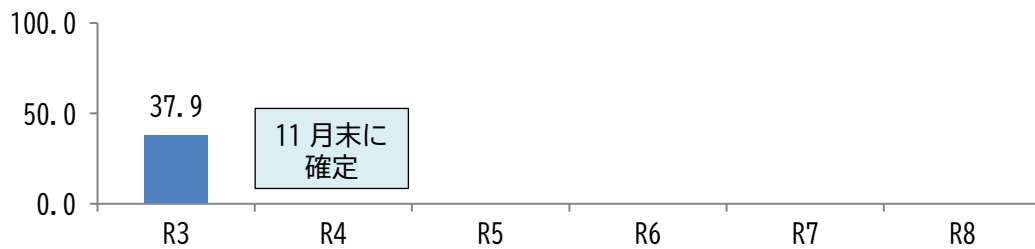


②運動習慣者の割合

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市で実施している特定健康診査を受診した40～74歳の運動習慣者の割合

(単位：%)

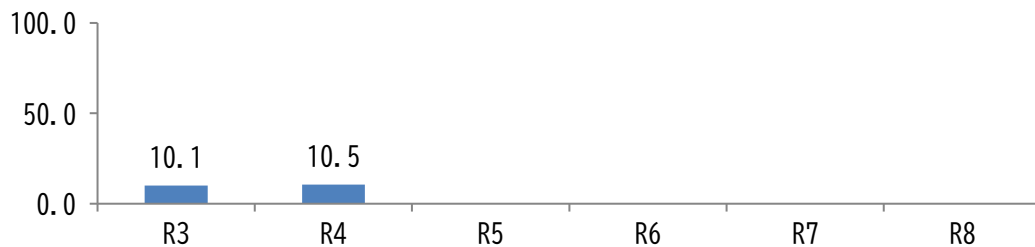


③各種がん検診の受診率（胃がん）

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市で実施している50歳以上を対象としたがん検診の受診率

(単位：%)

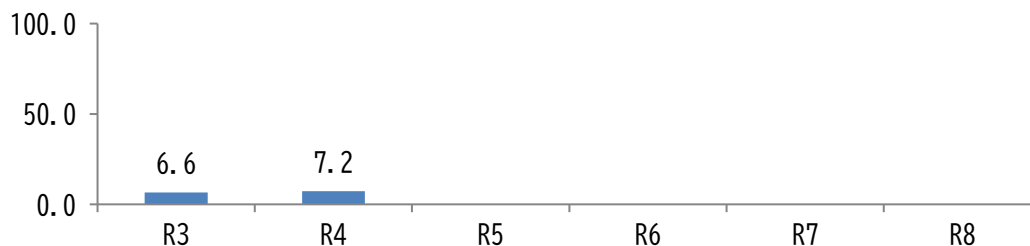


④各種がん検診の受診率（肺がん）

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市で実施している 40 歳以上を対象としたがん検診の受診率

（単位：％）

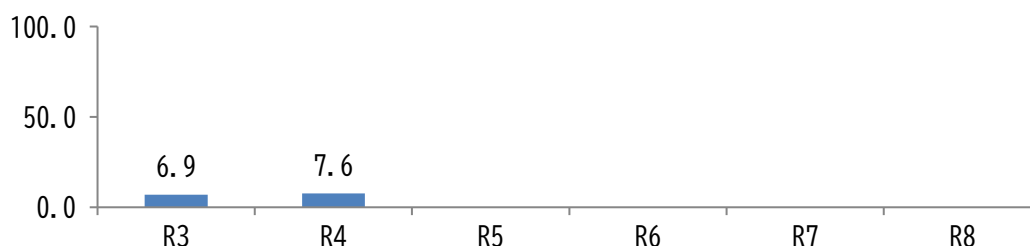


⑤各種がん検診の受診率（大腸がん）

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市で実施している 40 歳以上を対象としたがん検診の受診率

（単位：％）



（4）施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

（自己評価の理由）

- こころの健康づくり事業については、自殺予防講演会の開催等による普及啓発を継続するほか、コロナ禍では中止したゲートキーパー養成研修を今後実施していく予定としている。
- 健康教育事業で実施している「市民健康づくり講座」では、チラシやポスター、広報、各種 SNS 等の様々な媒体で周知を行い、令和 3 年度以降、参加者が増加しているものの、指標としたアンケート結果は横ばいとなっており、講演内容のさらなる理解促進に向けた資料の作成・配付を行っているほか、新たな周知方法の追加を検討している。
- 令和 4 年度の新規事業として、健康活動等に応じてポイントを付与し、ポイントの獲得状況に応じたインセンティブを提供できるスマートフォン向け健康ポイントアプリ「健はちプラス+」を開発し、市民が気軽に楽しく健康づくりに取り組む機運の醸成に努めた。
- このほか、女性健康支援センター事業では、思春期、妊娠、性や生殖等に関する相談対応や、女性の健康講座を順調に実施している。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-

施策２．疾病予防・重症化予防の推進

目指す姿	・がんや生活習慣病、感染症などの疾病予防・重症化予防が図られ、早期の治療、感染症のまん延防止につながっている。
施策の内容	健康診査・検診や各年代に応じた各種予防接種を実施するとともに、市民に対する受診促進を図ります。また、国や県、関係機関との連携により、感染症のまん延防止体制の強化を図ります。

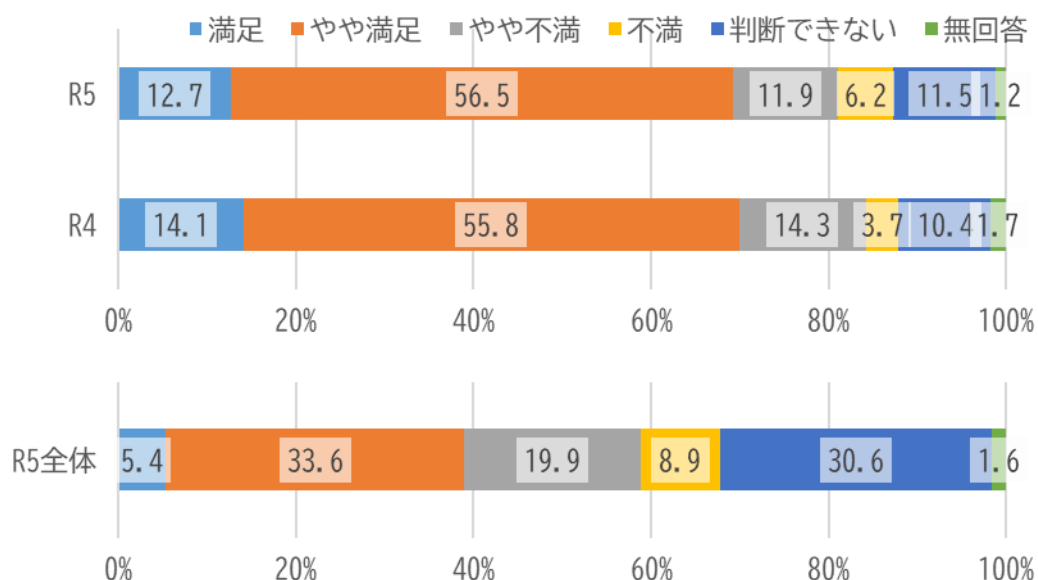
(1) 施策を推進するための事務事業

(33 事業)

事業名称	担当部署
市民へのフォローアップ推進事業	保健総務課
がん検診事業	健康づくり推進課
歯周病検診事業	健康づくり推進課
成人健康診査事業	健康づくり推進課
がん検診推進補助事業	健康づくり推進課
ピロリ菌対策事業	健康づくり推進課
受動喫煙防止対策事業	健康づくり推進課
乳幼児予防接種事業	保健予防課
高齢者予防接種事業	保健予防課
任意予防接種事業	保健予防課
感染症予防事業	保健予防課
難病患者相談事業	保健予防課
精神保健福祉相談等事業	保健予防課
結核予防事業	保健予防課
特定感染症検査等事業	保健予防課
一斉検査・検査キット活用事業	保健予防課
潜在保健師・看護師人材バンク活用事業	保健予防課
入院病床・宿泊療養施設確保事業	保健予防課
保健所機能強化事業	保健予防課
PCR検査体制強化事業	保健予防課
新型コロナウイルスワクチン接種事業	保健予防課
自宅療養者等対応強化事業	保健予防課
狂犬病予防対策事業	衛生課
国保人間ドック事業	国保年金課
国保特定健診及び特定保健指導事業	国保年金課
医療費適正化対策事業	国保年金課
後期高齢者健診事業	国保年金課
後期高齢者人間ドック事業	国保年金課
後期高齢者歯科口腔健康診査事業	国保年金課
生活習慣病の発症予防及び早期発見・重症化予防推進事業	国保年金課
後期高齢者保健指導事業	国保年金課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】健康診査やがん検診、各種予防接種の実施、感染症のまん延防止体制の強化など、疾病予防・重症化予防が推進されている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 5位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

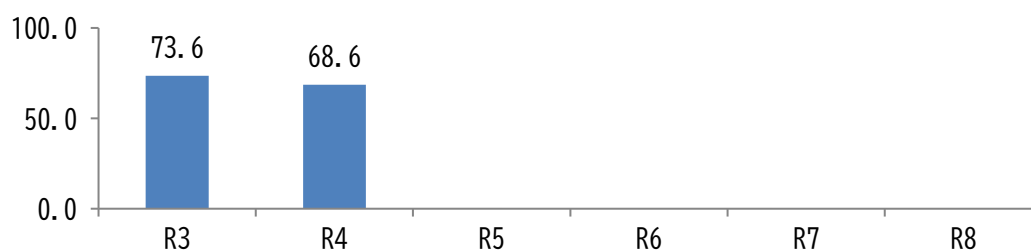
(3) 進行管理指標の動向

①各種がん検診精密検査の受診率（胃がん）

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市で実施している40歳以上を対象としたがん検診の精密検査受診率

(単位：%)

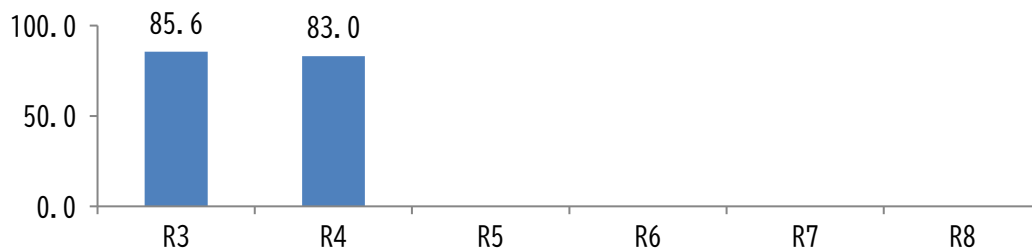


②各種がん検診精密検査の受診率（肺がん）

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市で実施している40歳以上を対象としたがん検診の精密検査受診率

(単位：%)

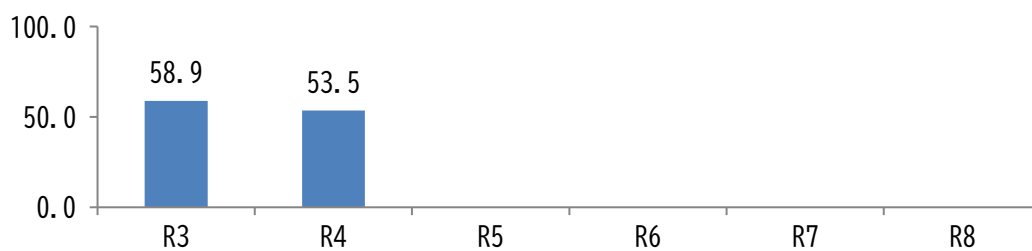


③各種がん検診精密検査の受診率（大腸がん）

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：市で実施している40歳以上を対象としたがん検診の精密検査受診率

(単位：%)

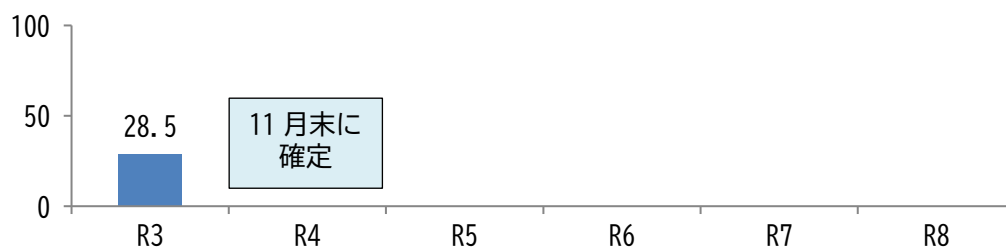


④国保特定健康診査の受診率

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：国保特定健康診査（国保人間ドック含む）受診率

(単位：%)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 新型コロナウイルス感染症対応については、国・県からの通知や市内の感染状況など、市民が安心して日常生活・経済社会活動を送るために必要な情報について、市長記者会見、SNS、ホームページなどを通じて適切に発信することができた。
- また、令和5年度においても、感染症の位置付け変更に伴い大幅に見直したが、市民の不安を解消するため、市コールセンターの運営は当面継続し、外来対応医療機関や療養期間等の案内をしている。
- コロナ禍により訪問指導が実施できなかった時期においては、郵送や電話による各種がん検診や国保特定健康診査の受診勧奨を実施したほか、医療機関等への受診控えへの対策として、精密検査の受診が必要な外出であることを広報はちのへ及び健診だより等で周知し、受診率向上に向けた取組を継続的に実施した。
- このほか、春と秋に市内全域で集合注射を実施し接種率を高めることにより、狂犬病発生の予防に努めている。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考えます →

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-

施策3. 地域医療の充実

目指す姿	・高度な医療体制の構築が図られ、市民が必要な時に必要な医療を受けられる環境が確保されている。
施策の内容	医療従事者の確保や医療環境の整備、ドクターヘリやドクターカーの効果的な運用による地域医療体制及び救急医療体制の充実を図ります。

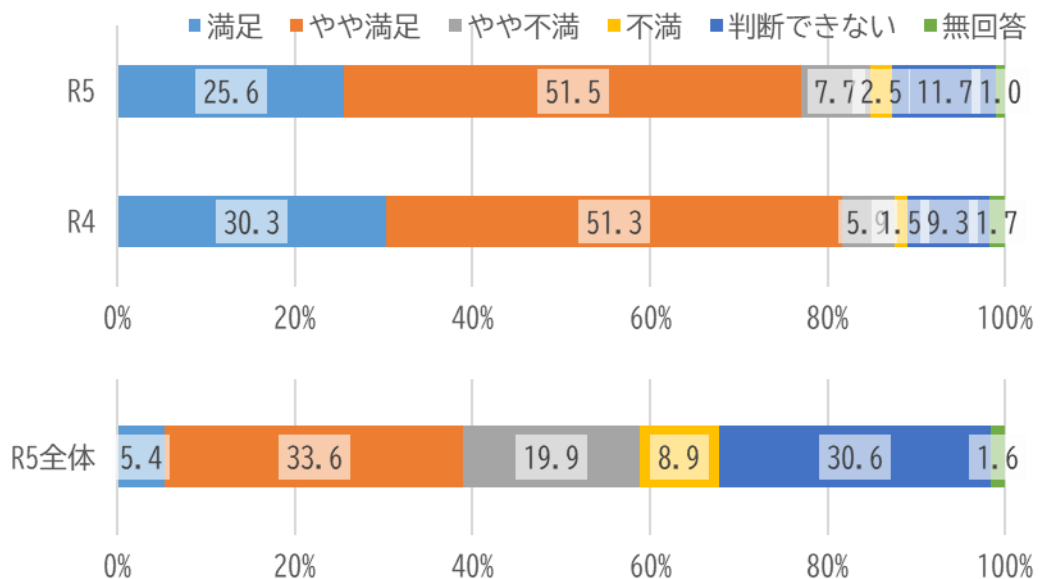
(1) 施策を推進するための事務事業

(10事業)

事業名称	担当部署
医師確保対策事業	保健総務課
看護師等修学資金貸与事業	保健総務課
献血・骨髄移植ドナー普及促進事業	保健総務課
医師派遣事業	保健総務課
高度医療従事者育成支援事業	保健総務課
看護師養成事業	高等看護学院
総合的ながん対策事業	市民病院
救急医療体制整備事業	保健総務課
ドクターカー運行事業	保健総務課
AED普及促進事業	保健総務課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】市民が必要な時に必要な医療が受けられるよう、ドクターヘリやドクターカーの運用や、医療従事者の確保など、地域医療の充実が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 1位/全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

(3) 進行管理指標の動向

①人口10万当たりの医師数・歯科医師数

資料：厚生労働省（隔年集計）

指標の定義：人口10万人あたりの医師・歯科医師数（隔年集計）

（単位：人）

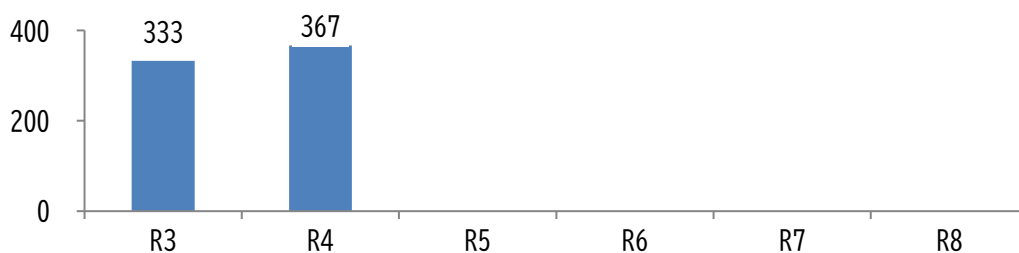


②ドクターヘリの出動件数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：消防の要請により出動したドクターヘリの出動件数

（単位：件）

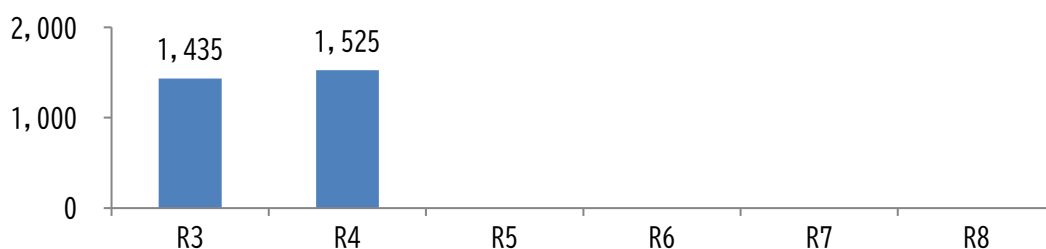


③ドクターカーの出動件数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：消防の要請により出動したドクターカーの出動件数

（単位：件）



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

a. 非常に順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 医療従事者の確保及び定着に向けた各種修学支援事業を県・市それぞれで実施しているほか、高度医療従事者育成支援事業により市民病院救命救急センター及び母子周産期医療センターの医師、看護師の医療技術の向上につながった。
- 休日夜間急病診療所などの一次救急、病院群輪番制の二次救急、市民病院救命救急センターの三次救急からなる医療の提供や、連携中枢都市圏市町村との連携によるドクターカーの運行、医師派遣事業の実施などにより地域医療体制及び救急医療体制の充実を図っている。
- 特にドクターヘリ、ドクターカーの存在は、救急処置開始までの時間短縮による救命率向上に大きく貢献している。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度から実施を見送ってきたAED講習会についても、令和4年度より順次再開できている。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考えます →

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>

＜基本的な考え方＞

地域社会は、年齢や性別、国籍の違い、障がいの有無など、多様な人々の集まりで構成されており、誰もが自分らしく暮らしていくためには、相互の理解や受容に加え、地域での支え合いや充実した社会保障制度により、「ともに生きる社会」を構築していくことが重要です。

これまで、本市では、誰もが住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、地域福祉や高齢者・障がい者の自立支援や社会保障の充実を図るとともに、地域コミュニティの振興に取り組んできました。

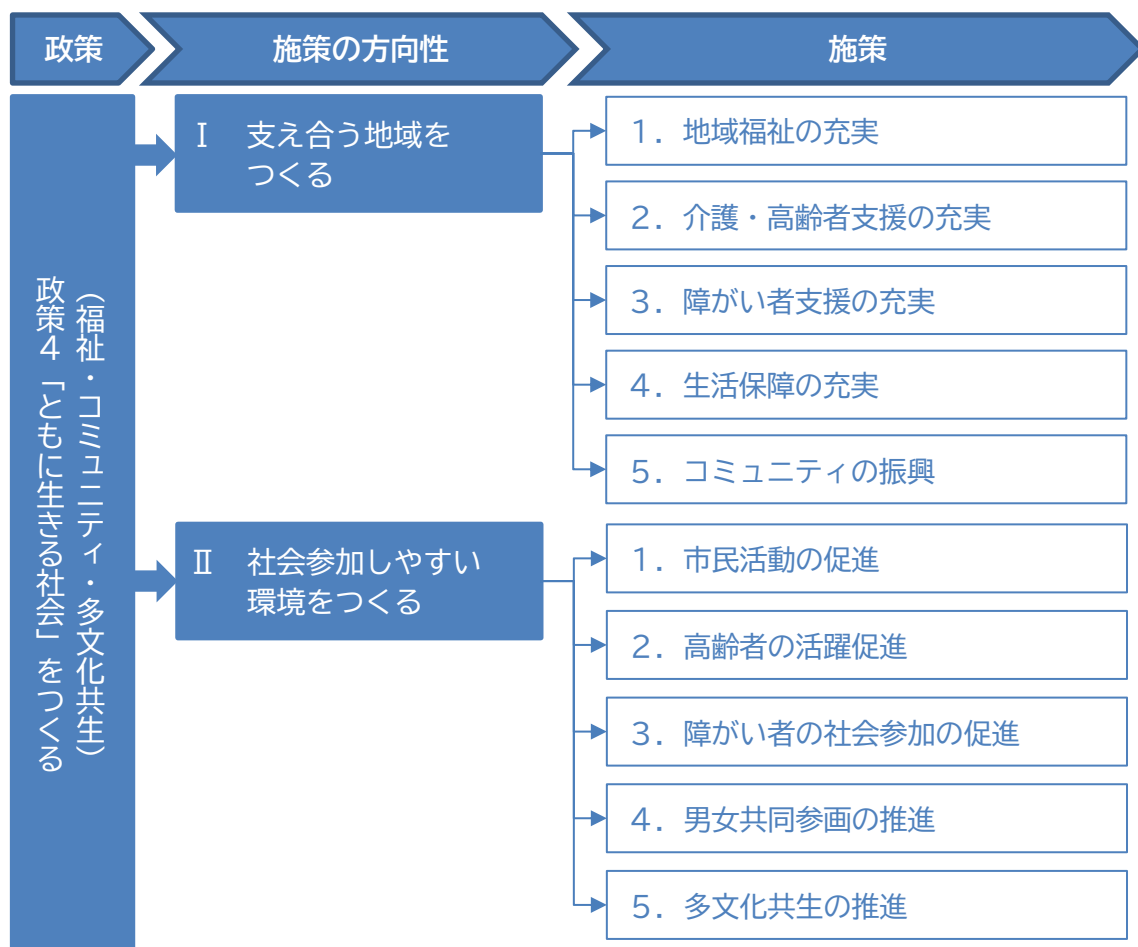
また、市民自らが主体となって個性豊かな地域づくりを進めることができるよう、市民活動の促進を図るとともに、高齢者や障がい者が生涯にわたって生きがいのある生活を送ることができるよう、社会参加のための環境づくりを進めてきました。

さらに、誰もが性別にかかわらず、自らの意思と選択に基づいて自分らしく生きることができるよう、男女共同参画を推進するとともに、外国人住民が地域社会で快適に暮らしていけるよう、地域における異文化理解の促進に取り組んできました。

こうした中、国では、近年の高齢化や人口減少の進行、核家族化の進展を背景に、社会とのつながりや住民同士の関係の希薄化が進む中で、高齢者や障がい者などあらゆる人々が生きがいを持って自分らしく共に暮らし続けることができるよう、人と人、人と社会がつながり支え合う社会の実現を目指しており、本市においても、地域で暮らす人々は誰もが支え・支えられるものという考えのもと、全ての市民が支え合いながら自分らしく活躍できる地域社会をつくる必要があります。

このようなことから、本市では、地域福祉や介護・高齢者支援、障がい者支援、生活保障の充実やコミュニティの振興を図り、地域全体で支え合う地域づくりに取り組むとともに、誰もが社会参加しやすい環境をつくるため、市民活動の促進や高齢者の活躍促進、障がい者の社会参加の促進、男女共同参画や多文化共生の推進を図ります。

< 施策の体系 >



■ 施策の方向性 I 支え合う地域をつくる

施策 1. 地域福祉の充実

目指す姿	・全ての市民が相手に対するいたわりの気持ちを持ちながら、安心して自立した生活ができており、地域における福祉活動が活発に行われている。
施策の内容	地域の見守り活動を促進するとともに、地域福祉の担い手の育成・支援や地域福祉に関する市民意識の醸成を図ります。

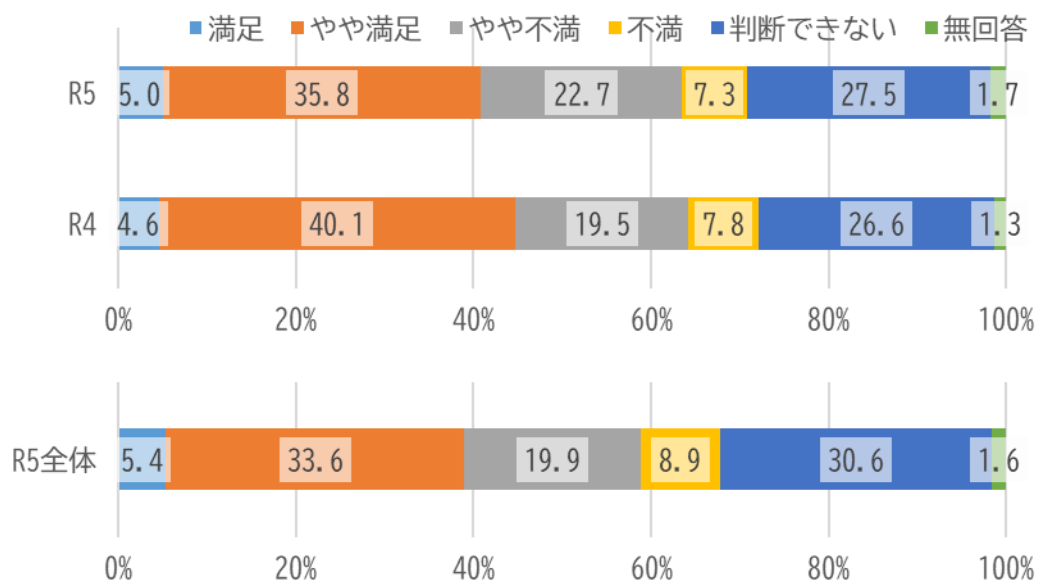
(1) 施策を推進するための事務事業

(7事業)

事業名称	担当部署
地域の安心・安全見守り活動推進事業 (高齢者・障がい者等)	福祉政策課
ほのぼのコミュニティ 21 推進事業	福祉政策課
民生委員児童委員育成事業	福祉政策課
社会福祉協議会支援事業	福祉政策課
福祉バス運営事業	福祉政策課
福祉出前講座事業	福祉政策課
心のバリアフリー推進事業	福祉政策課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】市民が安心して自立した生活を送ることができるよう、地域の見守り活動の促進など、地域福祉の充実が図られている。



【参考】満足度(「満足」と「やや満足」を合わせた割合)の順位 15位/全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

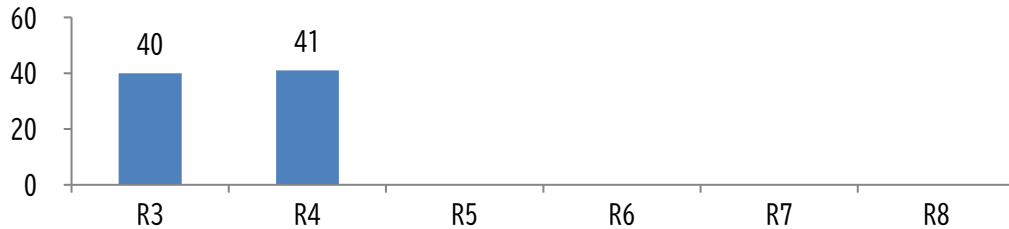
(3) 進行管理指標の動向

①地域の安心・安全見守り事業の協力事業者数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：地域の安心・安全見守り事業の協力事業者数

(単位：事業者)



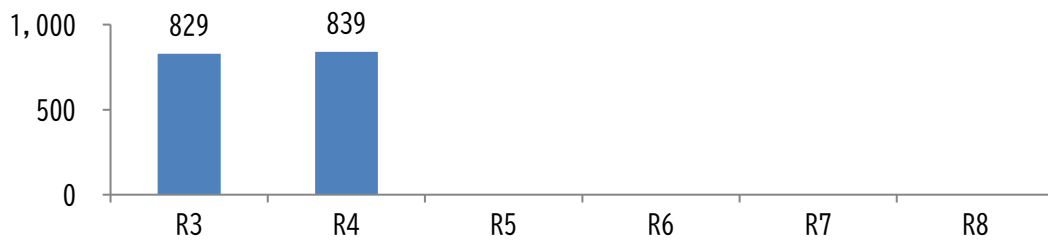
②ほのぼのコミュニティ 21 推進事業における

ほのぼの交流協力員数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：ほのぼのコミュニティ 21 推進事業におけるほのぼの交流協力員数

(単位：人)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 地域の安心・安全見守り活動推進事業において、協定事業者と協力し、市民が安心・安全に生活を送ることができる体制を構築している。
- 令和5年度はこの体制を活用し、発見・通報等のさらなる見守り活動の充実を図るため、電話以外のツールを利用した通報機能の導入を検討する予定としている。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-

施策2. 介護・高齢者支援の充実

目指す姿	・高齢者やその家族が住み慣れた地域で、安心して暮らすことができる。
施策の内容	地域包括ケアシステムの強化を図るとともに、高齢者の介護・認知症予防や権利擁護を推進します。また、医療・介護の連携を推進するとともに、地域の実情に応じた介護サービスの充実や介護保険制度の適正な運営、介護人材の確保及び育成支援に取り組みます。

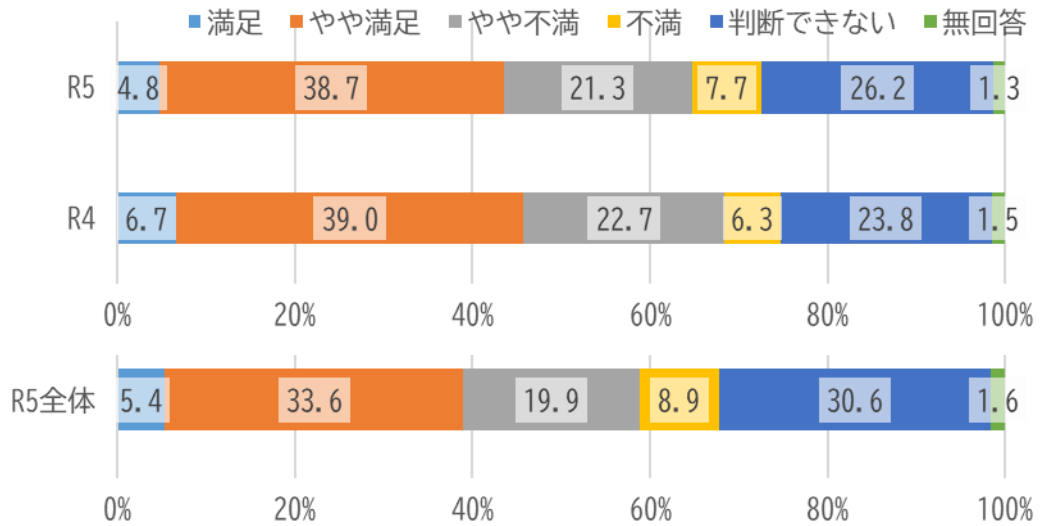
(1) 施策を推進するための事務事業

(30 事業)

事業名称	担当部署
成年後見センター事業	高齢福祉課
高齢者虐待対策事業	高齢福祉課
地域包括支援センター運営事業	高齢福祉課
介護予防ケアマネジメント事業	高齢福祉課
介護予防センター運営事業	高齢福祉課
介護予防・日常生活支援総合事業	高齢福祉課
はり・きゅう・あんまマッサージ施術費助成事業	高齢福祉課
低栄養改善事業	高齢福祉課
認知症サポーター養成・活動促進事業	高齢福祉課
市民後見推進事業	高齢福祉課
高齢者福祉に関する理解促進事業	高齢福祉課
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	高齢福祉課
在宅医療介護 ICT連携推進事業	高齢福祉課
寝たきり高齢者等介護者慰労金支給事業	高齢福祉課
老人福祉法の届出受理事業	高齢福祉課
所管施設の指導・監督事業	高齢福祉課
軽費老人ホーム運営支援事業	高齢福祉課
老人福祉施設等整備支援事業	高齢福祉課
介護保険サービス事業者指導・監督事業	介護保険課
介護の仕事理解促進事業	介護保険課
救急医療情報キット配付事業	福祉政策課
緊急通報装置貸与事業	高齢福祉課
老人日常生活用具給付事業	高齢福祉課
老人福祉電話設置事業	高齢福祉課
生活支援ハウス運営事業	高齢福祉課
寝具洗濯乾燥消毒サービス事業	高齢福祉課
障害者控除対象者認定書交付事業	高齢福祉課
介護保険サービス基盤整備事業	介護保険課
介護給付適正化事業	介護保険課
介護保険制度周知事業	介護保険課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】 高齢者やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、介護・高齢者支援の充実が図られている。



【参考】 満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 18位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

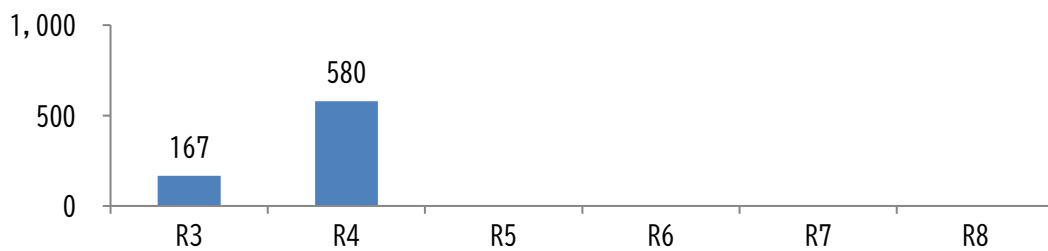
(3) 進行管理指標の動向

① 認知症サポーター養成講座の受講者数

資料：全国キャラバン・メイト
連絡協議会（各年度集計）

指標の定義：認知症サポーター養成講座受講者数

（単位：人）

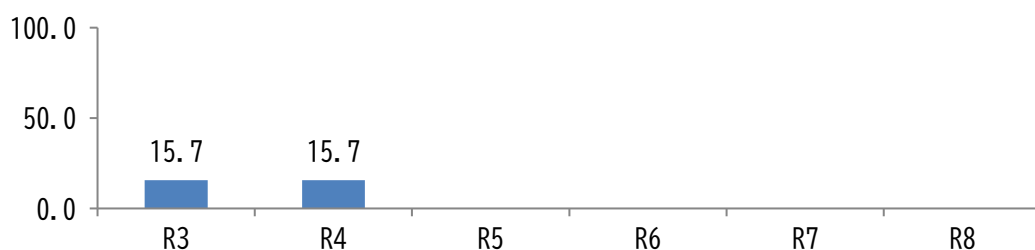


② 要介護認定率

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：要介護認定率

（単位：%）

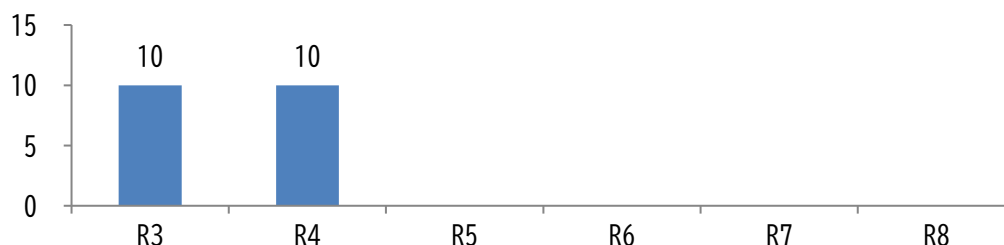


③青森県介護サービス事業所認証評価制度における認証法人数（累計）

資料：青森県（各年度集計）

指標の定義：青森県介護サービス事業所認証評価制度における認証法人数（累計）

（単位：法人）



（４）施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

（自己評価の理由）

- 認知症サポーター養成講座は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、対面、オンライン及びハイブリッド式にて講座を開催したことで、受講者数の増加につながった。
- 学生や保護者・教員における介護職に対するイメージアップを図るため、出前講座（講師：介護福祉士等）を実施し、休暇取得や給与等の処遇が改善され、ICTや介護ロボット等の導入により、介護職の負担が軽減されつつあること、また介護職の重要性等を伝えた。新型コロナウイルス感染症の影響を受け実績は高等学校1校に留まったものの、受講後のアンケート結果からイメージアップにつながったと考えており、今後も継続的に実施していく予定としている。
- 要介護認定率は横ばいで推移しているが、介護予防の効果や介護保険制度の周知によって軽い状態での申請が浸透してきたこと等により、中重度者の増加を抑制することができている。
- 成年後見センターを広域化し、八戸圏域の8市町村での利用を可能としたことで利便性の向上を図った。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

<ul style="list-style-type: none">•••

施策3. 障がい者支援の充実

目指す姿	・障がい者が身近な地域で必要な支援を受けながら、自らの望む生活を送ることができる。
施策の内容	障がいの特性に応じた福祉サービスを提供するとともに、障がい者が安心して暮らせる環境づくりや障がい者の権利擁護を推進します。

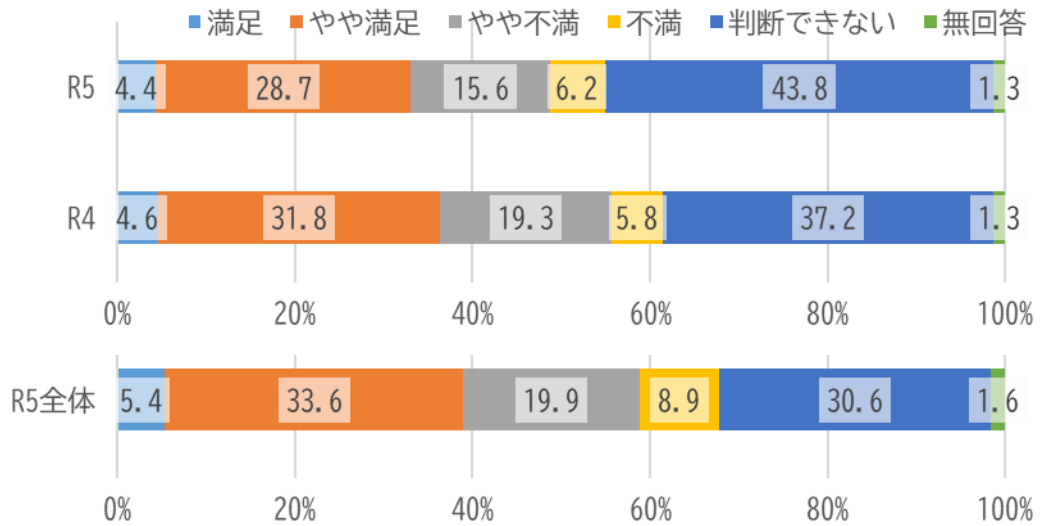
(1) 施策を推進するための事務事業

(17事業)

事業名称	担当部署
訪問系サービス事業	障がい福祉課
日中活動系サービス事業	障がい福祉課
居住系サービス事業	障がい福祉課
日常生活用具給付事業	障がい福祉課
自立支援給付事業	障がい福祉課
障害児通所支援給付等事業	障がい福祉課
身体障害者手帳交付事業	障がい福祉課
特別障害者手当給付等事業	障がい福祉課
重度心身障害者医療費助成事業	障がい福祉課
障がい者への災害情報等伝達事業	障がい福祉課
福祉電話基本料金助成事業	障がい福祉課
障がい者相談支援事業	障がい福祉課
障害福祉サービス事業者指定等事業	障がい福祉課
地域生活支援事業	障がい福祉課
特別児童扶養手当給付等事業	障がい福祉課
心身障害者扶養共済掛金補給金事業	障がい福祉課
権利擁護支援事業	障がい福祉課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】障がい者が身近な地域で必要な支援を受けながら、自らの望む生活を送れるよう、障がい者支援の充実が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 23位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

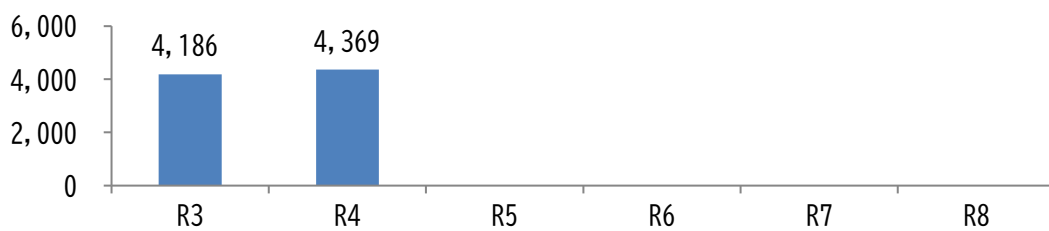
(3) 進行管理指標の動向

① 障害福祉サービスの利用者数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：障害福祉サービスを利用している障がい者の数

(単位：人)

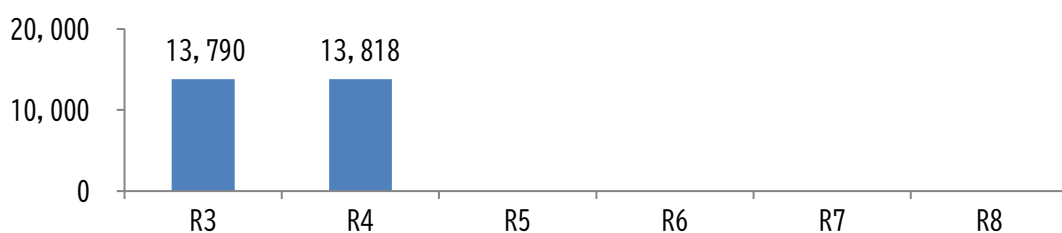


② 障害者手帳の所持者数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：障害者手帳の所持者数

(単位：人)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 障害福祉サービス事業所の新規指定を行ったことで事業所数が増え、サービス利用者の選択肢が増えた。
- 障害児通所支援サービスの支給決定を行ったことで利用者数が増加し、障がいのある児童の早期療育が推進された。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-

施策4. 生活保障の充実

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・年金の受給権が確保され、高齢者や障がい者が経済的に安定した生活を送っている。 ・生活困窮世帯が自立した生活を送ることができている。
施策の内容	国民年金制度の理解促進を図るとともに、生活保護制度の適正な実施や生活困窮者を対象とした自立支援を推進します。

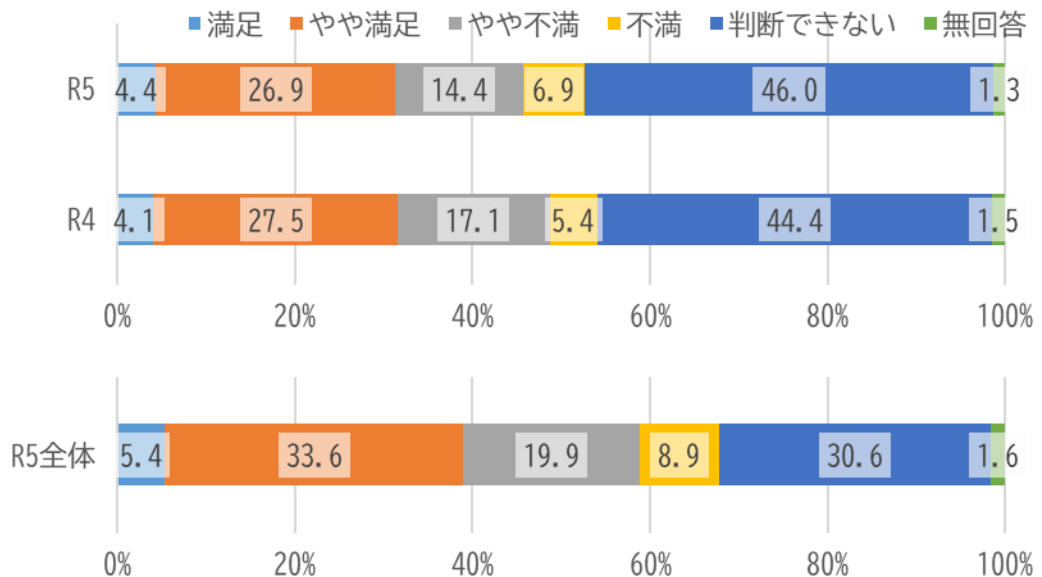
(1) 施策を推進するための事務事業

(4事業)

事業名称	担当部署
年金制度の周知・啓発事業	国保年金課
生活保護適正化事業	生活福祉課
生活保護費支給事業	生活福祉課
生活保護受給者等就労支援事業	生活福祉課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】生活困窮世帯への適正な生活支援や自立支援など、生活保障の充実が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 24位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

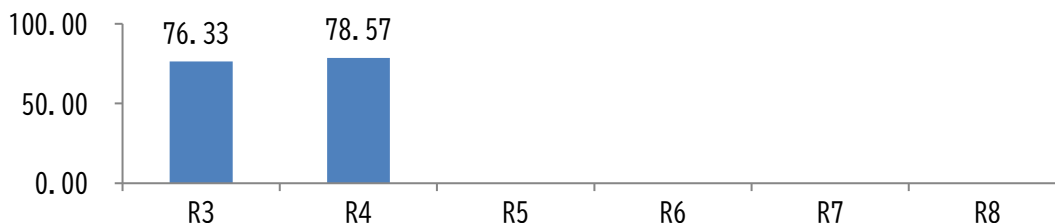
(3) 進行管理指標の動向

①国民年金保険料の納付率

資料：八戸年金事務所（各年度集計）

指標の定義：国民年金保険料の納付率

(単位：%)

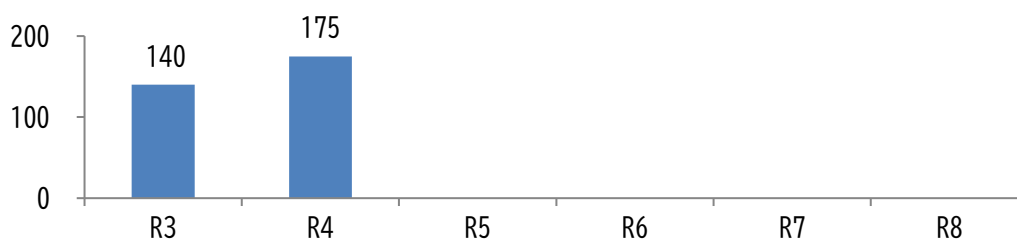


②生活困窮者を対象とした就労支援を受けた就労者数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：就労支援を受けて就労した人の人数

(単位：人)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- コロナ禍による各世帯の経済的状況の悪化が懸念される中、窓口や広報等による納付の必要性の周知に努めたことで、国民年金保険料の納付率の上昇につながった。
- 生活保護受給者等就労準備支援事業において、ハローワークとの連携や就労相談員の支援等により、就労者数が前年度よりも増加し、自立した生活を送ることができる世帯の増加に寄与したと考える。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-

施策5. コミュニティの振興

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> 多くの市民が、町内会・自治会の活動に参加し、安定した組織運営基盤が構築されている。 地域コミュニティ活動が活発化し、安全安心で個性豊かな住み良い地域づくりが進められている。
施策の内容	市民の地域コミュニティ活動に関する意識醸成や地域コミュニティ活動の促進を図ります。また、八戸市連合町内会連絡協議会との連携による町内会・自治会への加入促進や組織強化に向けた取組を推進します。

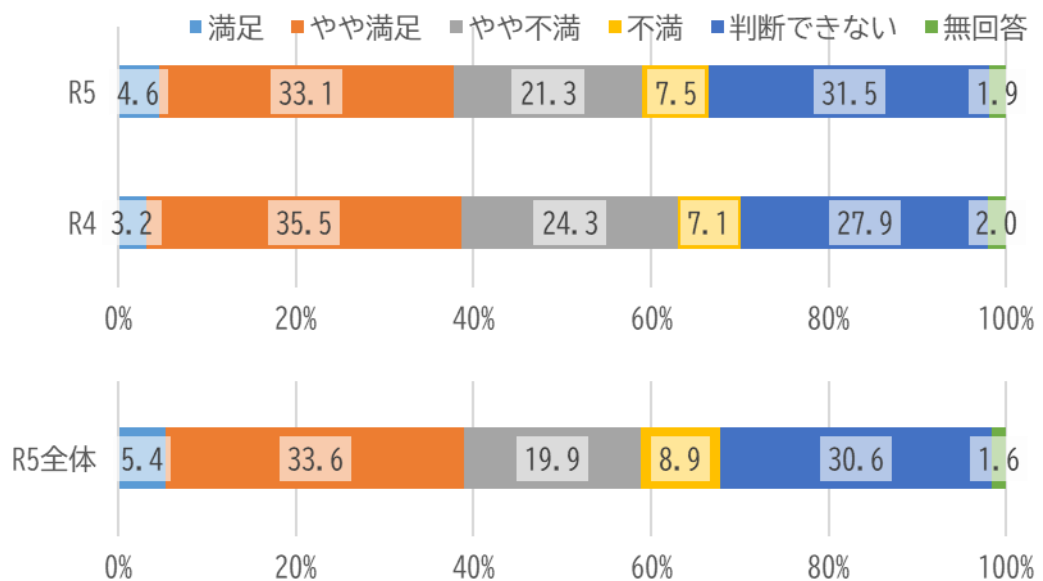
(1) 施策を推進するための事務事業

(8事業)

事業名称	担当部署
おらほの地域自慢事業	市民連携推進課
町内会等活動PR事業	市民連携推進課
町内会等振興交付金事業	市民連携推進課
コミュニティ助成事業	市民連携推進課
地域集会施設整備事業	福祉政策課
地域担当職員制度事業	市民連携推進課
連合町内会連絡協議会連携事業	市民連携推進課
「地域の底力」実践プロジェクト促進事業	市民連携推進課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】地域住民が相互に協力し、安全安心で住み良い地域づくりが進められるよう、コミュニティの振興が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 27位／全55問

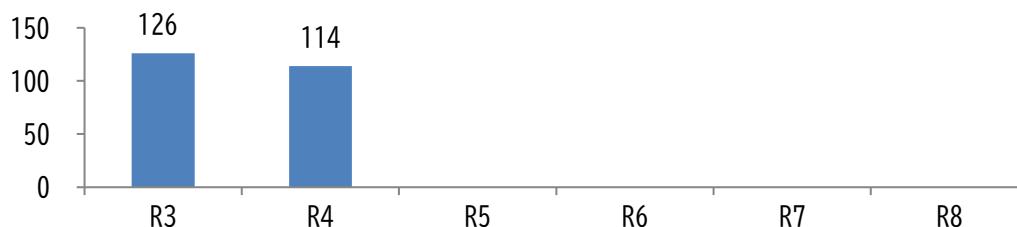
※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

(3) 進行管理指標の動向

①市窓口での町内会加入取次ぎ件数 資料：八戸市連合町内会連絡協議会（各年度集計）

指標の定義：市窓口での町内会加入取次ぎ件数

(単位：件)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある

(自己評価の理由)

- コロナ禍においては、対面での町内会への加入促進を実施しづらい状況が続いたため、加入取次ぎ件数は減少しているものの、より効果的に事業を進めるために、重点的に加入促進を行う期間を9月から転出入が多い3月に変更するなどの工夫を行いながら、連合町内会連絡協議会と連携して実施している。
- 地域資源を活用し、地域の課題解決や活性化を目的に主体的に取り組む地域を支援する「地域の底力」実践プロジェクト促進事業では、連合町内会等が2カ年に渡り取り組むプロジェクトを支援することとしているが、コロナ禍の影響により、地域での活動が困難となった期間を加味し、事業期間を延長し継続して実施している。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

<ul style="list-style-type: none">•••

■ 施策の方向性Ⅱ 社会参加しやすい環境をつくる

施策1. 市民活動の促進

目指す姿	・市民活動が活発に行われ、市民主体のまちづくりが進められている。
施策の内容	市民の協働意識の醸成を図るとともに、市民活動やボランティア活動を促進するための支援や環境づくりに取り組みます。

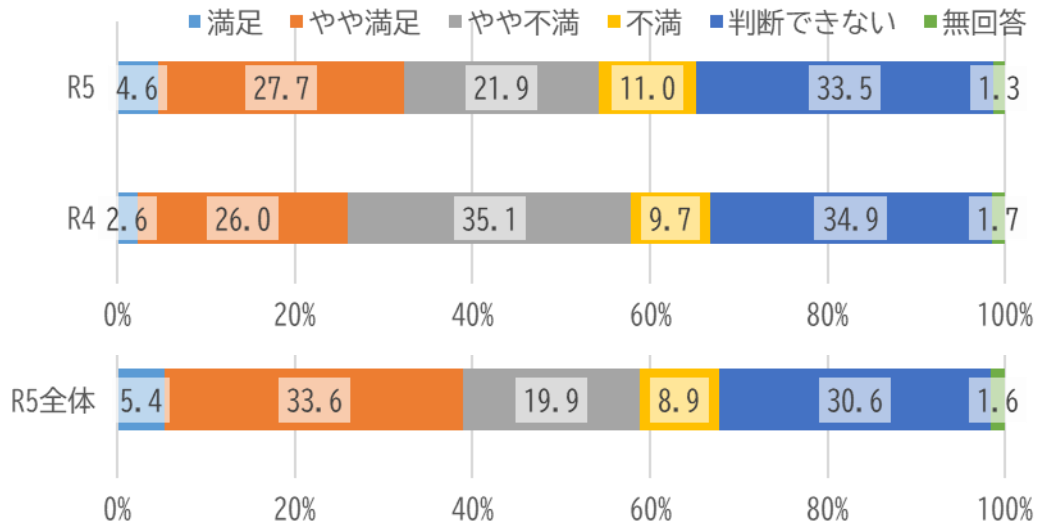
(1) 施策を推進するための事務事業

(15 事業)

事業名称	担当部署
八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議運営事業	政策推進課
学生まちづくり助成金等事業	市民連携推進課
協働のまちづくり研修会の開催事業	市民連携推進課
協働のまちづくり出前講座事業	市民連携推進課
市長との公民館サロン開催事業	市民連携推進課
行政活動に参画するボランティアの促進事業	市民連携推進課
特定非営利活動法人に関する事務事業	市民連携推進課
高校生地域づくり実践プロジェクト事業	市民連携推進課
まちづくりインターン助成金制度	市民連携推進課
協働のまちづくり推進基金運用事業	市民連携推進課
「元気な八戸づくり」市民提案制度事業	市民連携推進課
八戸圏域住民活動促進事業	市民連携推進課
協働のまちづくり推進委員会の運営事業	市民連携推進課
「元気な八戸づくり」市民奨励金事業	市民連携推進課
住民活動保険制度	市民連携推進課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】市民が自主的・自発的にまちづくりに関われるよう、市民活動の促進が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 40位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

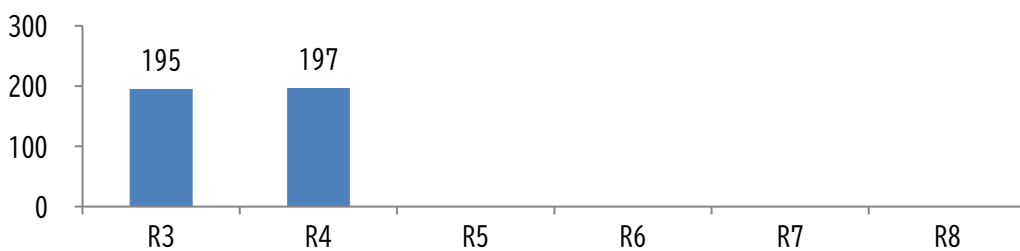
(3) 進行管理指標の動向

①市民活動サポートセンター「わいぐ」の登録団体数

資料：市民活動サポートセンター（各年度集計）

指標の定義：市民活動サポートセンター「わいぐ」の登録団体数

(単位：団体)

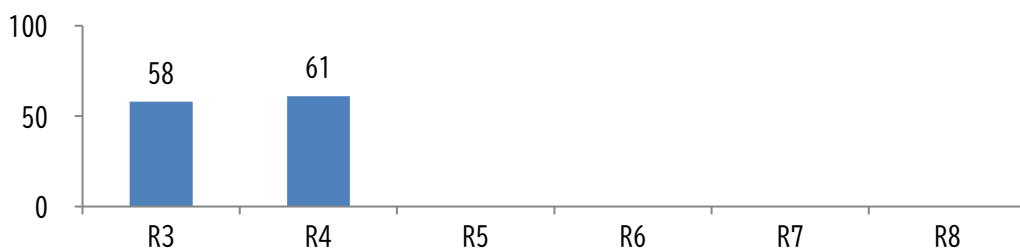


②NPO法人数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：八戸市所轄のNPO法人認証数

(単位：法人)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 令和4年度より、地域で活躍する若者や女性と学識経験者を中心に組織した「八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議」を附属機関として立ち上げ、多様な視点で検討した政策提言を受けており、それらの提言を受け、新たな事業実施に向けた検討も進んでいる。
- また、「市長との公民館サロン」として、令和4・5年度にかけて、すべての地区公民館において、地域住民の代表者と現地視察を交えながら、地域の現状や課題等について、市長自ら意見交換を行っている。
- 令和4年度に実施した12地域においては、対応できることは迅速に、対応できないことは別の方策を提案する等の対応を進めている。
- 市民活動サポートセンター「わいぐ」の登録団体数については、コロナ禍で活動できないことを理由に登録を解除した団体があったものの、新規の団体や未登録の団体を対象に積極的な周知を図ったことで、全体としては増加している。
- このほか、市民活動の主体や取組内容に応じた様々な助成金制度等を設けており、熱意をもって取り組んでいる市民団体等に対し、積極的な支援を行っている。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-

施策2. 高齢者の活躍促進

目指す姿	・高齢者が生きがいを感じながら、自らの経験と知識を活かして、地域の中で生き生きと暮らしている。
施策の内容	高齢者の外出機会や活躍できる場を確保し、生きがいづくりや仲間づくりを支援するとともに、高齢者の社会参加の促進を図ります。

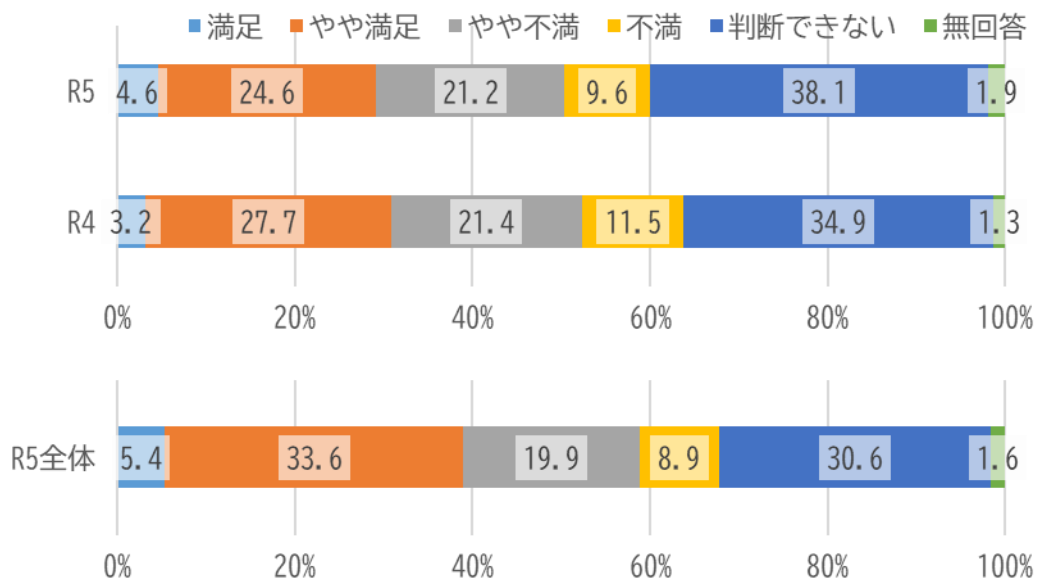
(1) 施策を推進するための事務事業

(9事業)

事業名称	担当部署
高齢者生きがいと健康づくり推進事業	高齢福祉課
鷗盟大学運営事業	高齢福祉課
高齢者バス特別乗車証交付事業	高齢福祉課
地区敬老事業支援事業	高齢福祉課
市敬老祝金支給事業	高齢福祉課
老人いこいの家等運営事業	高齢福祉課
シルバー人材センター育成・援助事業	産業労政課
老人クラブ活動支援事業	高齢福祉課
シニアはつらつポイント事業	高齢福祉課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】 高齢者が生きがいを感じながら、自らの経験と知識を活かして、地域の中で生き生きと暮らせるよう、高齢者の活躍促進が図られている。



【参考】 満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 36位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

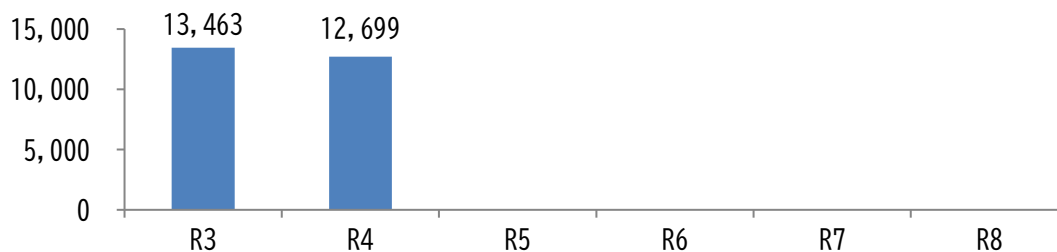
(3) 進行管理指標の動向

①高齢者バス特別乗車証の交付者数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：高齢者バス特別特別乗車証の交付人数

(単位：人)

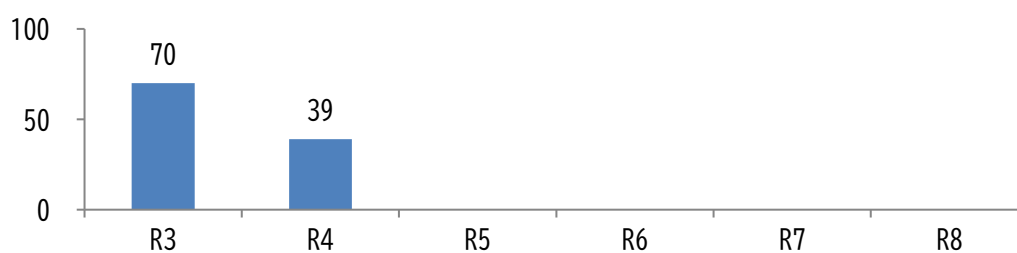


②鷗盟大学の卒業者数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：鷗盟大学の卒業者数

(単位：人)

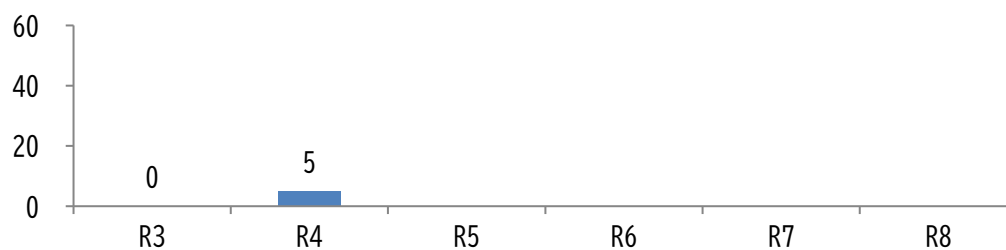


③シニアはつらつポイントの会員活動実人数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：高齢者が介護施設等でのボランティア活動をすると付与される「シニアはつらつポイント」の会員活動実人数

(単位：人)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある

(自己評価の理由)

- コロナ禍により、外出を控えた高齢者が多かったこと、市の事業規模を縮小したこと等により、全体的な活動人数が減少しており、特にシニアはつらつポイント事業においては、4年度に事業を再開したものの、ボランティアを受け入れる事業所の態勢が整わず、会員の活動が制限された。
- 老人いこいの家等の利用者は、令和4年度に入り、増加傾向にあるものの、当施策では重症化リスクの高い高齢者を対象としていることから、感染症対策に十分配慮しながら事業を実施していく。
- 地区敬老事業についても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、昨年度と同様、地区敬老会を自粛し、敬老祝品の配付を行ったところ。
- このほか、八戸市シルバー人材センターの会員数は1,281人と若干減少したが、今後も高齢者の希望に応じた就業の機会の確保及び提供等に向けて、シルバー人材センター運営に対する補助を継続していく。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える →

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

<ul style="list-style-type: none">•••

施策3. 障がい者の社会参加の促進

目指す姿	・障がい者が自らの個性や能力を発揮しながら、地域社会の中で活躍している。
施策の内容	障がいや障がい者についての市民や事業者の理解促進を図るとともに、障がい者の就労支援の充実や社会参加しやすい環境づくりに取り組みます。

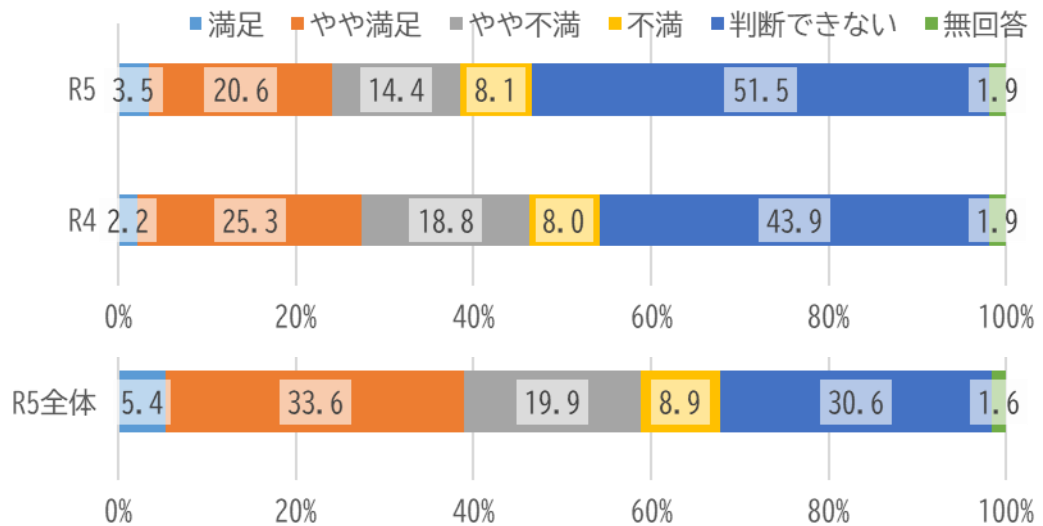
(1) 施策を推進するための事務事業

(16 事業)

事業名称	担当部署
研修会等開催・支援事業	障がい福祉課
障がい者団体活動支援事業	障がい福祉課
手話への理解促進・普及事業	障がい福祉課
障がい者バス特別乗車証交付事業	障がい福祉課
自動車運転免許取得・改造事業	障がい福祉課
重度心身障がい者タクシー料金助成事業	障がい福祉課
重度心身障がい者自家用車燃料券助成事業	障がい福祉課
手話通訳者・要約筆記者等派遣事業	障がい福祉課
手話通訳者設置事業	障がい福祉課
手話通訳者等養成事業	障がい福祉課
手話への理解促進・普及事業	障がい福祉課
軽度・中等度難聴児補聴器購入費助成事業	障がい福祉課
雇用奨励金交付事業	障がい福祉課
障がい者就労支援団体ネットワーク事業	障がい福祉課
障がい者就労サポーター養成事業	障がい福祉課
障がい者就業支援事業	障がい福祉課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】障がい者が自らの個性や能力を發揮しながら、地域社会の中で活躍できるよう、障がい者の社会参加の促進が図られている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 32位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

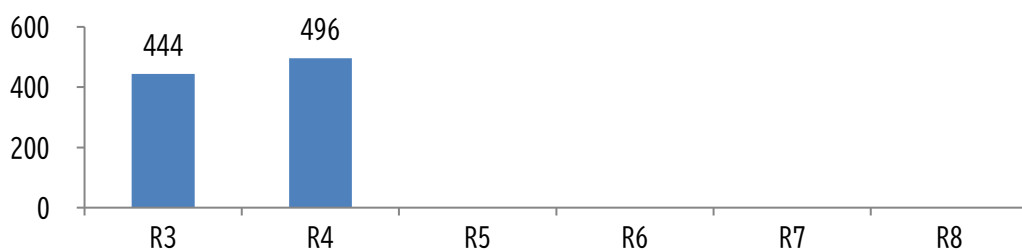
(3) 進行管理指標の動向

①手話通訳者の派遣件数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：手話通訳者派遣件数

(単位：件)

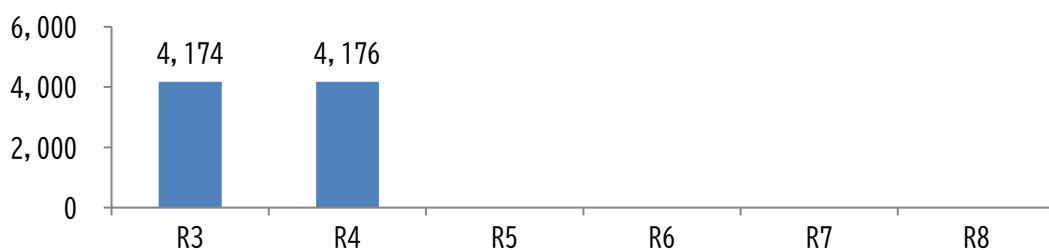


②バス特別乗車証の交付者数

資料：八戸市（各年度集計）

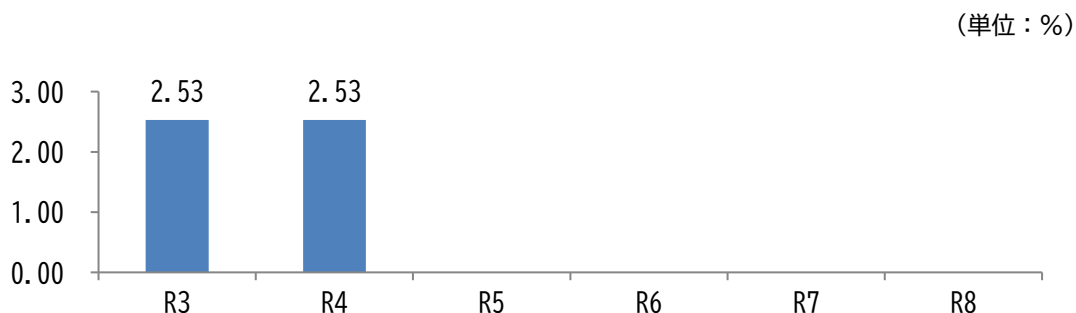
指標の定義：障がい者バス特別乗車証の交付を受けた人数

(単位：人)



③八戸公共職業安定所管内の障害者雇用率 資料：八戸公共職業安定所（各年度集計）

指標の定義：八戸公共職業安定所管内における企業数に対する雇用されている障がい者数の割合




(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- 平成31年3月に「八戸市手話言語条例」を制定し、手話に対する理解促進を図った中で、手話通訳者の派遣件数は年々増加しており、市民からの手話への理解が順調に進んでいるものと考えている。
- 市では、市に登録している派遣手話通訳者と依頼者の調整を行い、全ての派遣依頼に対応した。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考えます 

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-

施策4. 男女共同参画の推進

目指す姿	・男女が、性別にかかわらず、自らの意思と選択に基づいて、家庭や職場、地域など社会のあらゆる分野において個性と能力を十分に発揮できている。
施策の内容	市民の男女共同参画に関する意識醸成を図るとともに、男女が共に活躍できる環境づくりに取り組みます。

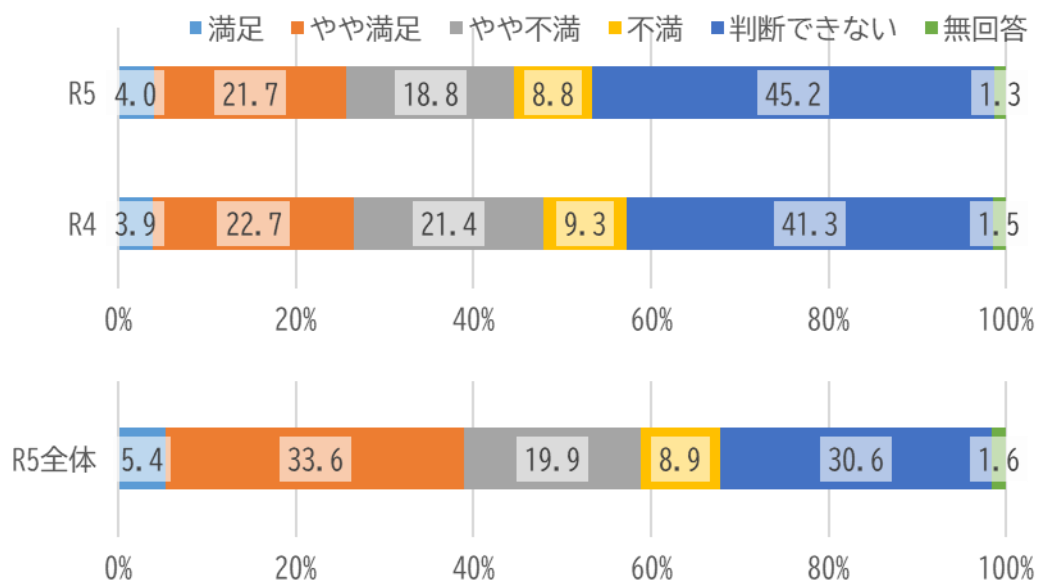
(1) 施策を推進するための事務事業

(9 事業)

事業名称	担当部署
男女共同参画意識啓発講演会開催事業	市民連携推進課
教育関係者等研修会開催事業	市民連携推進課
男女共同参画意識啓発事業	市民連携推進課
ロールモデルPR事業	市民連携推進課
男女共同参画情報発信事業	市民連携推進課
LGBT 理解促進事業	市民連携推進課
女性チャレンジ講座開催事業	市民連携推進課
女性活躍推進支援事業	市民連携推進課
附属機関における女性委員登用推進事業	行政管理課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】男女が性別にかかわらず、自らの意思と選択に基づいて、個性と能力を十分に発揮できるよう、男女共同参画が推進されている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 37位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

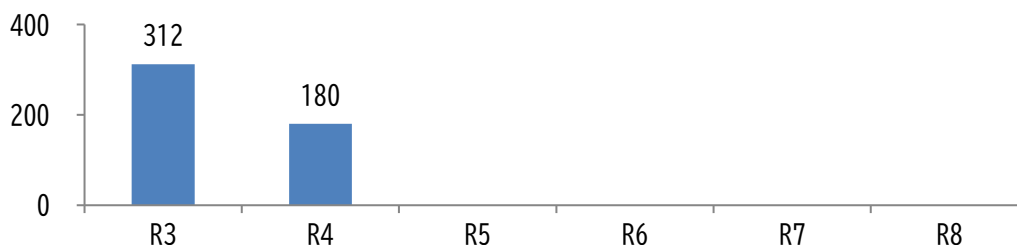
(3) 進行管理指標の動向

①男女共同参画意識啓発講演会の参加者数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：男女共同参画意識啓発講演会の参加者数

(単位：人)

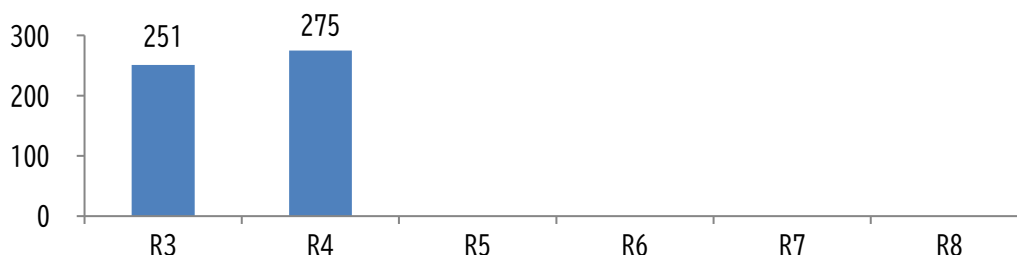


②女性チャレンジ講座（登録制）の累計受講者数

資料：八戸市（各年度集計）

指標の定義：女性チャレンジ講座（登録制）の累計受講者数

(単位：人)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある

(自己評価の理由)

- 男女共同参画意識啓発講演会の参加者数は前年度より減少したものの、受講者アンケートの満足度は高く、満足度を維持しながら参加者数が増加するよう、講師やテーマ、周知方法等を検討していく。
- 女性チャレンジ講座をはじめとする各種事業を継続して実施するとともに、令和4年度は新たに男女共同参画をテーマとしたパネル展の開催や多様な性のあり方に関する市職員ガイドラインの作成にも取り組み、男女共同参画に関する意識醸成を図った。
- 市の附属機関においては、女性委員の比率は27.6%（R4.4.1現在）であり、目標の30%以上に満たないことから、引き続き女性の登用拡大を推進する。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考えます →

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-

施策5. 多文化共生の推進

目指す姿	・国籍にかかわらず、全ての住民が互いの文化・習慣等を尊重し対等な関係を築きながら、共に地域社会で暮らしている。
施策の内容	外国人住民が安心して暮らせる環境づくりを推進するとともに、地域における異文化理解の促進を図ります。また、学校生活への適応が不十分な児童生徒への日本語教育の充実を図ります。

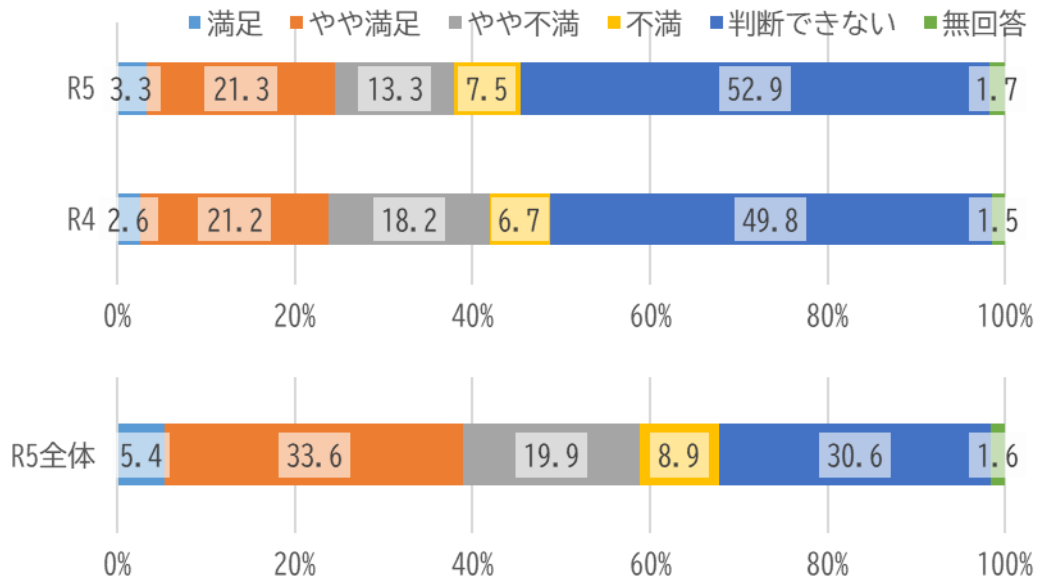
(1) 施策を推進するための事務事業

(3事業)

事業名称	担当部署
地域国際化団体支援事業	市民連携推進課
多文化共生推進事業	市民連携推進課
日本語教育支援事業	学校教育課

(2) 市民アンケートの結果

【設問】住民が国籍にかかわらず互いの文化・習慣等を尊重しながら、共に地域社会で暮らせるよう、多文化共生が推進されている。



【参考】満足度（「満足」と「やや満足」を合わせた割合）の順位 35位／全55問

※「判断できない」と「無回答」を除いて集計したもの

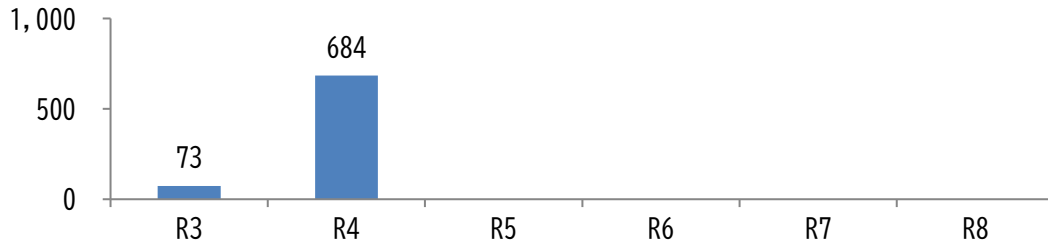
(3) 進行管理指標の動向

①多言語生活情報リビングガイドの配布数

資料：八戸国際交流協会（各年度集計）

指標の定義：多言語生活情報リビングガイドの配布数

(単位：冊)

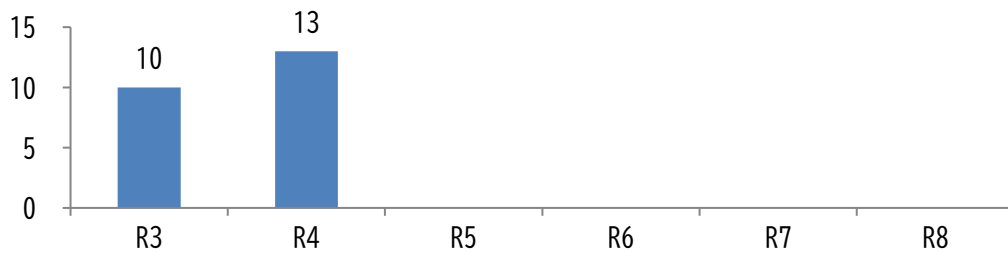


②小中学校において日本語教育支援を受けた児童生徒数

資料：八戸市教育委員会（各年度集計）

指標の定義：小中学校において日本語教育支援を受けた児童生徒数

(単位：人)



(4) 施策の進行状況に対する市の自己評価

b. 順調に進んでいる

(自己評価の理由)

- コロナ禍の影響による渡航制限が解除されたことで、入国者が増加し、市内の外国人住民数も増加傾向となっており、各種支援事業の利用者数も年々増えてきている。
- 引き続き、多言語生活情報リビングガイドの配布や窓口での日本語支援、児童生徒を対象とした日本語教育の支援など、在住外国人に必要な事業を展開していく。

(5) 施策に対する委員会の評価

- A. 市の自己評価が妥当と考える
- B. 市の自己評価が妥当でないと考える ↘

※Bとする場合には、次の4区分から委員会の評価を選定してください

- a. 非常に順調に進んでいる
- b. 順調に進んでいる
- c. 概ね順調に進んでいるが、改善の余地がある
- d. 順調に進んでいないため、改善の必要がある

(6) 施策を推進するための委員会からの意見

施策を推進するための委員会からの意見

-
-
-